

# 平成 29 年度事業報告

社会福祉法人ゆうかり学園

## 1、評議員会・理事会の開催状況

本年度は、下記のとおり評議員会及び理事会を開催した。

第一回理事会 平成 29 年 4 月 21 日（金）

理事 7 名中 7 名出席 監事 2 名中 2 名出席

第一号議案 平成 28 年度久留米市社会福祉施設等施設整備事業(障害者福祉関係) 補助金交付決定に伴う工事請負契約等について

①【監視カメラ・センサーライト設置工事】

②【防犯フィルム納入】

第二号議案 その他の件について

第二回理事会 平成 29 年 5 月 29 日（月）

理事 7 名中 7 名出席 監事 2 名中 2 名出席

第一号議案 平成 28 年度事業報告（案）審議の件について

第二号議案 平成 28 年度決算報告（案）審議の件について

第三号議案 監事監査の件について

第四号議案 平成 29 年度第一次補正予算書（案）の件について

第五号議案 社会福祉法人改革に伴う役員選任の候補者について

第六号議案 基本財産処分承認申請書の提出について

第七号議案 就業規則改正（案）、育児・介護休業等規程改正（案）審議の件について

第八号議案 その他の件

第一回評議員会 平成 29 年 6 月 27 日（火）

評議員 10 名中 10 名出席 陪席者：理事 7 名、監事 2 名

第一号議案 平成 28 年度事業報告（案）審議の件

第二号議案 平成 28 年度決算報告（案）審議の件

- 第三号議案 監事監査報告の件  
第四号議案 平成 29 年度第一次補正予算書（案）の件について  
第五号議案 役員（理事・監事）選任の件  
第六号議案 基本財産処分承認申請書、定款変更認可申請書の提出  
について  
第七号議案 社会福祉充実残高試算結果について  
第八号議案 その他の件

第三回理事会 平成 29 年 6 月 27 日（火）

理事 7 名中 7 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 社会福祉充実残高試算結果について  
第二号議案 施設整備に係る平成 29 年度助成事業(社会福祉法人清水基金)の申請について  
第三号議案 新理事による理事長選定の件  
第四号議案 役員報酬規程別表の変更について

第四回理事会 平成 29 年 8 月 3 日（木）

理事 7 名中 6 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 妊娠・出産・育児休業等に関するハラスメント及びセクシャルハラスメントの防止規程新設、それに伴う従来のセクシャルハラスメント防止規程の廃止及び福岡労働局への是正・改善報告書提出の件について  
第二号議案 育児・介護休業規程改正（案）審議の件について

第五回理事会 平成 29 年 11 月 28 日（火）

理事 7 名中 7 名出席 監事 2 名中 1 名出席

- 第一号議案 平成 29 年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書（案）審議の件  
第二号議案 規程関係改正（案）審議の件  
・役員報酬規程改正（案）・役職員旅費支給規程改正（案）  
第三号議案 社会福祉施設整備協議書(平成 30 年度防犯対策強化に係る整備事業)提出について  
第四号議案 社会福祉事業の用に供する不動産（土地）の借入について

- 第五号議案 人事院勧告の件について  
第六号議案 評議員会招集に関する審議の件

第二回評議員会 平成 29 年 12 月 8 日（金）

評議員 10 名中 8 名出席 陪席者：監事 2 名

- 第一号議案 平成 29 年度社会福祉法人ゆうかり学園第二次補正予算書（案）審議の件  
第二号議案 規程関係改正（案）審議の件  
・役員報酬規程改正（案）・役職員旅費支給規程改正（案）  
第三号議案 社会福祉施設整備協議書（平成 30 年度防犯対策強化に係る整備事業）提出について  
第四号議案 社会福祉事業の用に供する不動産（土地）の借入について  
第五号議案 人事院勧告の件について

第六回理事会 平成 30 年 3 月 12 日（月）

理事 7 名中 7 名出席 監事 2 名中 2 名出席

- 第一号議案 平成 29 年度第三次補正予算書（案）審議の件について  
第二号議案 平成 30 年度事業計画（案）審議の件について  
第三号議案 平成 30 年度当初予算（案）審議の件について  
第四号議案 社会福祉法人清水基金助成事業の内示に伴う助成金交付契約等について  
第五号議案 定款変更（案）審議の件について  
第六号議案 役付職員及び部設置規程改正（案）、職員の服務宣誓に関する規程改正（案）、給与規程改正（案）、職の設置に関する規程改正（案）、退職金支給規程改正（案）、経理規程改正（案）審議の件について  
第七号議案 湯布院保養所の改新築について  
第八号議案 施設長等の契約更新について  
第九号議案 平成 30 年度給食納入業者の選定について  
第十号議案 その他の件について

第三回評議員会 平成 30 年 3 月 23 日（金）

評議員 10 名中 9 名出席 陪席者：監事 2 名

第一号議案	平成 29 年度第三次補正予算書（案）審議の件について
第二号議案	平成 30 年度事業計画（案）審議の件について
第三号議案	平成 30 年度当初予算（案）審議の件について
第四号議案	定款変更（案）審議の件について
第五号議案	施設長等の契約更新について
第六号議案	その他の件について

## 2、平成 29 年度心身障害児者の施設利用状況

ゆうかり医療療育センターの利用状況は、医療型障害児入所施設（定員 150 名）では延 9,218 名、一日平均 25.3 名、療養介護事業所（定員 150 名）では延 37,005 名、一日平均 101.4 名、私的入院では延 259 名、一日平均 0.7 名であった。入所率は 150 定員に対して 84.9%であった。短期入所では 21 名の利用があり、延利用日数は 415 日であった。一方、日中一時支援も 18 名の利用があり、延 299 回の利用があった。

コアラ園では、児童発達支援事業（定員 20 名）に対し延 3,219 名、一日平均 13.3 名が利用された。また、放課後等デイサービス事業（定員 10 名）では延 416 名、一日平均 1.72 名であった。保育所等訪問では延 32 名の利用があった。

耳納学園においては、施設入所支援（定員 34 名）に対し、延 10,476 名の利用があり、一日平均 28.7 名、充足率は 84.4%、就労継続支援 B 型（定員 40 名）では、年間作業参加実績延 6,599 名、定員から見た充足率は、68%、一日平均作業参加実績利用者数は 27.2 名であった。

千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 50 名）が延 11,338 名で 91.0%の充足率、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,574 名で 99.8%の充足率であった。内訳は 8 名の利用者が延べ 459 日間の入院の他、外泊日数は延べ 141 日間となっており入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 13,974 名で 95.7%の充足率であった。短期入所利用者は延 173 名、日中一時の利用はなかった。

第二千歳療護園の利用状況は、生活介護（定員 40 名）に対して延 10,271 名で 98.7%、施設入所支援（定員 40 名）は延 14,423 名で 98.7%の充足率である。内訳は 8 名の利用者が延べ 115 日間の入院の他、外泊日数は延べ 66 日間となっている。入院日数や外泊日数を除くと実利用者数は延べ 14,242 名で 97.5%の充足率であった。短期入所の利用者は延 38 名、日中一時の利用はなかった。

施設毎の事業報告の詳細は別紙の通りである。

### 3、記念行事関係

昭和 32 年 8 月 13 日、当時日本で一番小さな肢体不自由児施設として久留米市上津町で産声を上げたゆうかり学園が 60 周年の節目を迎えると同時に、創設者日野紀典の生誕 100 年を記念して下記の通り記念事業を実施した。

- ① 8 月 18 日、地域交流ホールにて、利用者様とご家族様や卒園生を中心に記念イベントを開催した。内容は阿蘇猿回しのパフォーマンスと親父バンド（障害者支援施設の施設長さんで構成）をはじめ 4 組のバンド演奏で楽しい一日を過ごした。
- ② 9 月 1 日、ホテルマリターレ創世において 60 周年記念式典および祝賀会を開催した。記念式典では感謝状の贈呈を行い、法人役職員、保護者会役員、職員 OB を含め 245 名の参加であった。
- ③ その他、記念誌を 1,000 部作成した。また、4 月 21 日 60 周年を記念して、ゆうかりの苗木を玄関前及び敷地内に 7 本植樹した。

### 4、社会福祉施設等施設整備事業

- ① 平成 29 年度久留米市社会福祉施設等施設整備事業として外部からの不審者の侵入に対する防犯体制強化のための事業を実施した。整備内容は、防犯カメラ、センサーライト設置工事及び防犯フィルム納入で総事業費 2,870,640 円（市補助金 2,152,000 円、施設負担 718,640 円）であった。
- ② 引き続き同整備事業の第二弾として警察署への非常通報装置整備について総事業費 2,959,200 円（補助金 2,219,000 円）にて久留米市へ 9 月 29 日協議書を提出した。
- ③ 老朽化した洗濯機、乾燥機等の新規整備について申請をしていたが、11 月 7 日に社会福祉法人清水基金の現地調査があり 30 年 1 月 25 日付にて助成金の内示を受けた。（総事業費 5,540,400 円、助成金 3,800,000 円）

### 5、賛助会員の状況

今年度の加入状況は個人会員 70 名及び 5 団体であった。盆踊り花火大会、運動会への案内及び広報紙（年 3 回発行）を送付した。

また、温泉利用者数は延 2,818 名、（前年度 3,438 名）一日平均 30.6 名であった。

### 6、利用者様のサービス向上に関する事項

苦情解決委員会をはじめとする各委員会活動を通じて、利用者様のサービスの向上、並びに職員の資質向上に努めた。

## 7、定例事業

### (1) 盆踊り・花火大会の開催

大会期日を平成 29 年 7 月 20 日（木）※雨天時翌日順延 とし、4 月に各施設、部署へ実行委員の選出を依頼する。5 月 10 日に、行政機関や各協力機関への挨拶や依頼を正副実行委員長で出向する。実行委員会は、第 1 回目を 5 月 17 日とし、毎週水曜日に開催した。また実行委員会では、売店位置や内容の変更、トイレ用扇風機の購入をした。5 月に食品売店、6 月には打ち上げ花火関連の許可申請等を各関係機関へ出向する。7 月 10 日より会場設営に取り掛かる。しかしながら、7 月 5 日に発生した九州北部豪雨の影響を鑑み、12 日に中止を決定した。

### (2) 運動会の開催

開会期日を平成 29 年 10 月 15 日（日）とし、8 月に各施設、部署へ実行委員の選出を依頼する。2 月に東部運動公園の調整会議に参加し、会場の確保を行う。実行委員会は、第 1 回目を 8 月 23 日とし、毎週水曜日に開催した。

実行委員会では、施設対抗リレーへの参加を田主丸特別支援学校に依頼、鈴割り競技用の球を購入した。備品準備等を 10 月 5 日より行う。前年からの準備が良く、スムーズに進む。テント借用も水縄小、支援学校に依頼した。準備は昨年度から引き継いだものが多くスムーズに進んだ。しかしながら大会前日より雨模様にて、当日の朝、中止を決定する。なお、各施設、寮での保護者様へのご案内及び雨天時の対応がなされており、室内レクリエーションを中心に実施した。

### (3) 韓国瑞林福祉院との職員交流研修事業

本年は、4 月 17 日から 20 日まで瑞林福祉院にて、4 月 20 日から 23 日まで当法人にて研修を行う予定であったが、北朝鮮情勢により中止となった。

### (4) 耳納学園展示即売会

第 11 回目となる恒例の展示即売会を本年度は 1 月 8 日（祝）から 10 日（水）まで『ゆめタウン久留米 ウエストコート』にて開催した。

## 8、職員研修事業（園内）

### (1) 外部講師による人権研修

### (2) 新任職員研修

いずれも別添報告書の通り内容を進化させながら実施した。

## 9、委員会活動

苦情解決委員会はじめ各委員会活動を活発に行ってきた。特に新設した防犯委員会ではうきは警察署からの指導を仰ぎ、防犯講習会（護身術を中心に）を開催した。その他各委員会からの報告は別添のとおりであった。

# 施設事業報告

- ・ ゆうかり 医療療育センター
- ・ コアラ園
- ・ 相談支援事業所 夢の紀
- ・ 耳納学園
- ・ 千歳療護園
- ・ 第二千歳療護園
- ・ 久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業
- ・ 久留米市東部障害者基幹相談支援センター



# ゆうかり医療療育センター

## 医療部診療課 外来

### 《概況》

外来受診者の中で、入所前診察者は重症化の傾向にある。

療育前診察は昨年と同様、自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動症、言語発達遅滞等の受診者が多く、1人あたりの診療時間は長く要している。

リハビリ実施計画書に基づく診察も行っていることから、診療予約日を早めに設定した。

千歳療護園・耳納学園入所者の診察もあり、スムーズに診察出来るよう情報収集を行い、医師との連携に心掛けた。

平成 29 年度 受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
新患	21	13	21	19	35	33	33	28	45	66	46	45	405
再来	991	1,046	1,042	861	882	937	997	1,381 ※	1,032 ※	838	1,026	970	12,003

※インフルエンザ予防接種者を含む

- ・インフルエンザ流行時期は予防策として、外来者は受付で、マスク着用と必要に応じて体温測定を行い、症状がみられた時は、医師に報告し対応した。
- ・発達障害児の新患予約状況は、6ヵ月待ちである
- ・NICU から紹介の早期リハビリテーションに関しては、スムーズに診察出来ている。
- ・各種の申請書類診察が、年々増加傾向にある。
- ・入所利用者の、障害区分更新の為、特に書類が多かった。
- ・入所者の重症化に伴い、ガス滅菌器の使用は、感染防止に欠くことはできないが、吸引チューブを、単回使用にしたため、ガス滅菌器使用は減少し、コスト削減に繋がった。

## 医療部診療課 エックス線

### 《概況》

ゆうかり医療療育センターにおけるレントゲン業務は少しずつではあるが透視や造影剤を使用する検査などが多くなってきた。栄養チューブの位置確認確認や胃瘻造影、膀胱瘻のチューブ交換やEDチューブの交換など、多様な検査も加わってきた。整形外科の撮影は、CRでの画像拡大でよりよい診断ができている。

### 平成 29 年度 エックス線撮影件数

#### 一般撮影

(名)

月 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	27	28	31	18	34	24	29	19	27	22	29	30	318
なかよし	14	6	7	11	8	6	7	14	12	6	10	12	113
ともだち	8	8	17	5	12	6	9	10	9	10	10	14	118
外 来	11	22	9	16	15	14	33	18	61	13	18	121	351
計	60	64	64	50	69	50	78	61	109	51	67	177	900

#### CT

(名)

日 病棟・外来	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
おひさま	0	1	0	1	0	0	0	2	2	1	2	0	9
なかよし	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	4
ともだち	1	0	1	1	1	2	0	1	0	4	2	1	14
外 来	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	5
計	2	3	1	2	2	2	0	3	3	6	6	2	32

- ・12月は職員健診のために外来が増加した。
- ・おひさま寮、ともだち寮は、胃瘻造影が多くなってきた。
- ・CT撮影では種々の診断のために、より薄いスライスで撮影している。今後3D画像などを診断に活用していきたい。

## 医療部診療課 検査

### 《概況》

本年度は、利用者様の年2回の健診・職員の健診は、予定通り行うことが出来た。ノロウイルス胃腸炎については、利用者様、職員、職員の家族に罹患者がみられた。下痢原性大腸菌については、利用者様をはじめ、職員、職員の家族にも感染がみられ、陰性になるまで検査を行った。インフルエンザについては、A型、B型ともに利用者様や職員、職員の家族にも罹患者がみられた。A型は高熱が出ていたが、B型に関しては、熱が出る人と熱が出ない人がおり、発熱していない人で検査を行うとB型のインフルエンザ陽性であったというのが目立っていた。

29年 月	健診用検査			白血球数・CRP	血液生化学	検尿・検便	血液ガス分析	心電図	脳波	腹部超音波	迅速診断	外注検査
	6カ月	誕生月	外部・入園時									
4	19	22	0	33	15	16	9	16	2	2	24	79
5	24	25	1	38	18	23	1	23	2	2	18	89
6	16	25	4	28	20	19	4	20	2	3	3	92
7	16	16	2	35	28	27	16	15	0	3	6	73
8	20	24	0	40	26	17	4	24	2	5	9	143
9	13	15	3	37	13	26	8	18	2	3	15	84
10	23	21	21	50	11	25	8	32	3	1	19	96
11	26	21	1	31	18	19	0	20	3	6	4	87
12	23	15	3	44	18	27	3	16	1	5	31	89
1	14	15	1	51	24	26	10	10	2	4	40	89
2	23	19	4	55	24	19	8	14	1	6	67	144
3	16	15	13	29	19	19	8	29	2	5	14	129
計	233	233	53	471	234	263	79	237	22	45	250	1,194

《概況》

医師の処方箋に基づき調剤を行った。平成 29 年度の処方箋枚数及び調剤数については下表の通りである。

① 平成 29 年度受付処方箋枚数及び調剤数

外来（千歳、耳納、その他）・病棟（おひさま寮、なかよし寮、ともだち寮）

		外来						病棟					
		臨時		定期		注射		臨時		定期		注射	
月	日数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数	枚数	剤数
4	20	8	9	0	0	0	0	1,122	1,390	83	185	65	65
5	18	24	18	0	0	9	9	1,151	1,472	83	185	33	36
6	22	15	14	0	0	4	4	1,097	1,438	83	185	38	38
7	20	17	22	0	0	2	5	1,067	1,363	83	185	48	48
8	20	11	12	0	0	1	1	1,153	1,493	81	180	76	83
9	20	20	26	0	0	2	2	1,061	1,387	80	179	31	31
10	21	20	23	0	0	4	3	1,073	1,430	80	179	57	57
11	20	15	23	0	0	5	4	971	1,331	80	179	18	18
12	21	78	135	0	0	5	5	1,067	1,444	80	178	75	75
1	19	79	129	0	0	1	1	980	1,316	80	181	61	61
2	19	48	79	0	0	6	6	1,072	1,426	81	182	58	58
3	21	60	97	0	0	2	2	1,097	1,462	79	177	29	29
計	241	395	587	0	0	41	42	12,911	16,952	973	2,175	589	599

★吸入処方は、外用剤でカウント

② 薬剤師増員により、11 月から 3 名体制となったことで業務に余裕ができた。

今後は今まで十分とは言えなかった病棟の救急カートの医薬品管理、薬局内在庫管理等の充実、さらには病棟スタッフの負担軽減のためにできる業務に取り組む予定である。

③ 薬事審査会開催

各科先生による新規採用医薬品の申請書提出に基づき審査を行った。

また、医薬品に関する安全性情報などの提供を行った。

④ 救急カート点検

急変時に必要となる注射薬の期限をチェックし、期限の切れたものについては随時交換を行った。

⑤ 院内感染症対策委員会参加

⑥ 医療安全対策委員会参加

⑦ 給食委員会への参加

臨床検査値の異常が投薬中の薬剤に起因するか否かを、検討するとともに情報

提供を行った。

- ⑧ 出張 平成 29 年 11 月 9 日 福岡県病院薬剤師研修会 参加  
福岡県保健医療介護部薬務課、福岡県病院薬剤師会主催

## 医療部診療課 口腔衛生

### 《概況》

歯科医師の指導に基づき継続的な口腔管理を行った。

病棟（おひさま寮・なかよし寮・ともだち寮）、耳納学園、千歳療護園・第 2 千歳療護園、外来受診者総数は下記の通りである。

平成 29 年度園内歯科受診者数 平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
Dr	80	84	108	93	82	71	74	81	83	81	85	90	1,012
D.H	228	227	250	222	182	239	241	194	171	111	156	237	2,458

Dr（歯科医師） D.H（歯科衛生士）

平成 29 年度外来受診者数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	20	31	50	16	28	23	23	26	30	21	20	26	314

- ・コアラ園利用者様の口腔検診実施（6 月）
- ・耳納学園利用者様の口腔検診実施（6 月）
- ・千歳療護園・第二千歳療護園において利用者様と職員対象に「口腔ケアの大切さについて」講座（5 月）
- ・なかよし寮において利用者様と職員対象に「口腔ケアの大切さについて」講座（8 月）
- ・職員対象の研修会実施（2 月 2 回）
- ・近年は歯周病による全身疾患への影響が取り出されており、利用者様の歯周病進行防止のために定期的な口腔ケアを今後も継続していく。

## 看護部看護課

### 《概況》

利用者様の尊厳を守る姿勢で、感謝の気持ちで謙虚さを忘れずに、看護・介護行為に心を込めて務めた。

看護師1名が日本重症心身障害福祉協会認定看護師に合格、2名が申請中である。1名が認定看護管理者教育課程ファーストレベル研修修了。1名が福岡県看護実習指導者講習会（特定分野）修了する。施設内においても研修委員を中心に、他職種も参加しやすい研修を開催、今後も看護・介護の質向上のため、自己研鑽していきたい。

* 委託入院	久留米大学病院	16 件	聖マリア病院	5 件
	田主丸中央病院	8 件	新古賀病院	1 件
◆ 超重症児	5 名	◆ 準超重症児	6 名	
◆ 気管切開者	13 名	◆ 鼻腔カテーテル挿入者	12 名	
◆ 胃瘻チューブ挿入者	24 名	◆ 腎瘻、膀胱瘻	3 名	
* インフルエンザ予防接種		129 名		
インフルエンザ A 型罹患		2 名		
B 型罹患		8 名		
* 短期入所者（延）		408 名		
* 日中一時支援利用者（延）		291 名		

### <実習生受入数>

医学・看護学生	久留米大学医学部医学科	19 名
	久留米大学医学部看護学科	9 名
	昭和学園高等学校看護学科	54 名
	八女筑後看護専門学校	39 名
体験研修	新採用県職員	9 名
ボランティア		11 名

## ① 平成 29 年度 在籍者数 (月初日)

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
療養	104	103	103	103	103	103	102	102	102	102	102	102
医療	26	26	26	27	27	25	25	25	26	25	25	25
私的	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1

## ② 平成 29 年度入退園者状況

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
措置入園												
退園						1						
契約入園			1				1	1				1
退園	1				1	1	1		1			
私的入院		1			1		1					
退院					1	1						

## ③ 平成 29 年度年齢別入所者数

平成 30 年 3 月 31 日現在

年齢(歳)	0～6	7～12	13～15	16～19	20～29	30～39	40 以上	計
措置	2	4	6	2	0	0	0	14
契約	0	3	3	8	14	22	64	114
私的	0	0	0	0	0	0	1	1

## 【なかよし寮】

- 1月下旬から2月中旬にかけ、インフルエンザB型に7名が罹患。拡大防止のため、マスクの着用・手洗いの厳守に努力し利用者様から職員への感染はなかった。今年度はノロウイルス感染症2名、下痢原性大腸菌4名の感染がみられた。今後も職員の手洗いの厳守に努めていく。
- 委託入院は4名と前年度より減少しているが、膀胱癌による終末期の利用者様がおられ、他病院での治療を拒否することが多いため、出来るだけ長く、なかよし寮で生活出来るような体制を、他職種と連携しながら整え、本人、家族の意向に添えるよう支援していきたい。
- 短期入所利用者様は、週末や学校長期休暇中の利用を中心に、コンスタントに受けている状況である。
- 今年度2名が高等部卒業、そのままなかよし寮残留予定。

【おひさま寮】

- 今年度 8 名が、医療機関に入院し手術、治療を行った。  
利用者様の高齢化や重症化に伴い、1 名が進行性胃癌、1 名が絞扼性イレウスにより死亡退院となった。今まで以上に個々の日常生活や健康状態を把握し、異常の早期発見や他職種との情報交換を密に行い、連携に努めていかなければならない。また、1 人の利用者様が別疾患により、複数回入院となり、疾患への共通理解がより必要となった
- 経鼻カテーテルを挿入し、経口摂取を行っていた利用者様 1 名が、肺炎を繰り返し胃瘻造設となった。
- 利用者様 1 名がインフルエンザ A 型に罹患、早期に個別対応を行ったため感染拡大防止に繋がった。
- 短期入所では、人工呼吸器装着の利用者様を定期的に受け入れるようになった。

【ともだち寮】

- 感染症の発生は、ノロウイルス感染症 1 名、下痢原生大腸菌感染者 2 名、両方とも発生源は不明である。徹底した感染対策により、感染拡大は防止できた。感染発症時の対応もスムーズにでき、マニュアル化の効果がみられた。
- 医療安全対策では、外傷の予防と誤薬に関する対策の強化として、インシデントレポートの提出を促進し、職員の意識向上に努めた。  
外傷に関して、1 件の骨折が発生、日常生活の支援において、ますます丁寧な介助を心掛けていくよう共通理解を図った。

病類別入所者数

平成 30 年 3 月 31 日現在

病 名		病 名	
脳性麻痺	66	染色体異常	4
低酸素性虚血性脳症	2	脊髄破裂後遺症	2
副腎白質ジストロフィー	2	マーシャルスミス症候群	1
脳損傷後遺症	1	先天性眼球欠損症	1
頭蓋内出血後遺症	2	二分脊椎	1
化膿性髄膜炎後遺症	2	レット症候群	3
左瘻性麻痺	1	急性脳症後遺症	1
滑脳症	2	インフルエンザ脳炎後遺症	1
重度知的障害	1	硬膜下出血後遺症	1
クラインフェルター症候群	1	頭蓋咽頭腫摘出術後状態	1
髄膜炎後遺症	1	猫鳴き症候群	1



ダウン症候群	3	乳幼児揺さぶられ症候群	1
右中頭蓋窩クモ膜胞	1	心肺停止蘇生後状態	1
麻疹脳炎後遺症	1	脳腫瘍手術後状態	1
脳炎後遺症	2	頭蓋骨早期頭蓋癒合	1
無酸素性脳症	2	頭部外傷後遺症	2
水頭症	4	超低出生体重児	2
精神発達障害	3	水頭無脳症	1
MCT 変異による甲状腺ホルモン輸送障害	2	先天性筋緊張性ジストロフィー症	3
難治性てんかん	1		

計 129 名

<出張関係>

- ◆ 第 109 回摂食・嚥下指導（基礎・実習）講習会  
4月 25日～26日 介護福祉士 1名
- ◆ 平成 29 年度社会福祉施設職員研修（新任研修）  
5月 10日・11日・23日・24日 看護師 3名
- ◆ 平成 29 年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会  
5月 18日～19日 看護師 1名
- ◆ 平成 29 年度第 1 回施設長会並びに施設長・職員研修会  
6月 12日～13日 看護師 1名
- ◆ 平成 29 年度九州沖縄地区重症心身障害施設経営研究会  
7月 20日～21日 看護師 2名
- ◆ 平成 29 年度ストレスマネジメント研修  
7月 26日 看護師 1名
- ◆ 平成 29 年度医療機器安全基礎講習会  
7月 30日 看護師 1名
- ◆ 障がい児者支援のための短期入所サービスの拡充に係る講習会  
7月 26日 看護師 1名
- ◆ 平成 29 年度在宅医療介護連携推進事業合同会議  
8月 17日 看護師 1名
- ◆ A E D 講習会（3 時間普通救命講習会）  
9月 8日 介護福祉士 3名
- ◆ 第 62 回西日本肢体不自由児施設運営協議会

	9月 7日～8日	看護師	2名
◆	平成29年度児童福祉施設新任職員研修会		
	9月 12日	看護師	3名
◆	平成29年度全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護師コース」		
	9月 13日～15日	看護師	1名
◆	第86回肢体不自由および重症心身障害の児童に関わる講習会		
	10月 3日～6日	看護師	1名
◆	第37回全民連中堅職員研修会		
	10月 5日～6日	看護師	1名
◆	第36回九州身体障害児者施設研究会		
	10月 12日～13日	看護師	1名
◆	平成29年度福岡県特定分野看護実習指導者講習会		
	10月 11日～17日	看護師	1名
◆	平成29年度第1回福岡県医療勤務環境改善研修会		
	10月 16日	看護師	1名
◆	平成29年度全国重症心身障害児者施設職員研修会「看護管理研究会コース」		
	10月 31日～11月2日	看護師	1名
◆	平成29年度アンガーマネジメント研修		
	11月 2日	看護師	1名
◆	第39回看護管理者講習会		
	11月 7日～10日	看護師	1名
◆	平成29年度久留米市医療安全対策研修会		
	11月 9日	看護師	1名
◆	平成29年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職研修		
	11月 18日～19日	看護師	1名
◆	女性リーダー講習会		
	11月14日・12月12日	看護師	1名
◆	第38回日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会総会		
	11月 16日～17日	看護師	2名
◆	第71回重度・重症児者、医療・療育（基礎）講習会		
	12月 4日～8日	介護福祉士	1名
◆	第133回摂食・嚥下指導（基礎・実習）講習会		
	12月 13日～14日	介護福祉士	1名
◆	パワーハラスメント対策支援セミナー		

1月 15日	看護師	1名
◆ 第52回重症障害児（者）医療看護講習会		
1月 18日～20日	看護師	1名
◆平成29年度院内感染対策講習会		
2月 7日～8日	看護師	1名
◆平成29年度久留米市障害者基幹相談支援センター報告研修会		
2月 8日	看護師	1名
◆平成29年度第2回施設長・職員研修会		
2月 20日	看護師	1名
◆第40回九州地区重症心身障害研究会		
3月 9日～10日	看護師	1名
◆平成29年度業務目標の設定・管理・達成研修		
3月 13日	看護師	1名

《概況》

平成 29 年度の事業目標である、一人ひとりのニーズに対応し、満足して頂けるような支援を、なかよし寮、おひさま寮、ともだち寮、それぞれの利用者様へ、個別支援計画に基づき、充実した毎日を過ごせるように心掛けた。自己決定の実現に向け、よりよいサービスと園内外の活動や季節毎の行事（花祭り、端午の節句、七夕、クリスマス会、節分、ひな祭りなど）、各種のレクリエーション、グループ活動、少人数による希望外出を計画実施した。

5 月には、3 寮合同によるレクリエーション会を実施した。午前中は、それぞれの寮でのレクリエーション、午後からは、ブリヂストン K2 バンド 20 名以上の方々の慰問により、屋外芝生広場で演奏会を実施して頂いた。3 寮利用者様の保護者約 70 名余りの参加も頂き、盛会な行事となり、毎年開催して頂きたいとの声もたくさん頂いた。

法人全体の行事、10 月の大運動会は、天候不良により屋外での全体運動会は中止となったが、急遽、それぞれの寮での屋内レクリエーションを実施して、保護者の皆様方にもたくさんのゲームに参加して頂いた。

又、10 月には初めてのイベントの池坊いけばな教室・ゆうかり学園合同花展を開催した。いけばなボランティアの片岡清美先生とその生徒の皆様約 20 名、ゆうかり医療療育センター利用者様 32 名、千歳療護園利用者様 12 名、総勢約 70 名の方々のいけばな作品を支援棟交流ホールに 5 日間展示して、保護者の皆様、地域一般の皆様方にも鑑賞して頂いた。

3 月には、なかよし寮の学卒利用者様を対象に日帰りバス旅行（保護者様参加）を計画実施した。福岡ヤフオクドームツアー、ヒルトン福岡シーホークでのランチバイキング、周辺での買い物、散策を実施した。

次年度も、3 寮合同によるレクリエーション会（保護者参加型）、ともだち寮の日帰りバス旅行（保護者様参加）を実施の方向で計画する。

**【なかよし寮】**

今年度は、活気ある毎日を送れることを目標として、個別支援計画に基づき、個々の活動が低下しないように、活気溢れる処遇を心掛け展開した。

学卒の利用者様には、全体的活動や個人的活動（個別活動【アレンジ教室、生花教室・音楽教室】・趣味活動【ゲーム、手芸、DVD鑑賞】・月 1～2 回の午前バス外出）などの内容を工夫して実施した。買い物外出や希望外出は、園外での楽しみを増やした。又、年度末には日帰り旅行を計画し、学卒利用者様・保護者様と共にヤ

クフクドーム見学・ヒルトン福岡シーホークでの昼食を行った。

就学児では、長期休暇（夏・春休み）を利用しての外出を目標にして、個人のニーズや希望に沿って外出や活動を行った。又、特別支援学校との連携を密にし、学業の向上と学校生活を充実出来る様にサポートした。更に、土曜日の午後にドライブ外出を実施した。

(園外活動)

身体障害者体育大会	5/ 3 (水)	3名
買い物外出	5/18 (木)	2名
買い物外出	6/ 5 (月)	2名
サーカス鑑賞	6/12 (月)	7名
サーカス鑑賞	6/13 (火)	6名
買い物外出	6/16 (金)	3名
買い物外出	6/23 (金)	2名
買い物外出	6/26 (月)	2名
買い物外出	7/28 (金)	3名
買い物外出	7/31 (月)	3名
買い物外出	8/17 (木)	2名
買い物外出	9/ 8 (金)	2名
買い物外出	9/21 (木)	2名
買い物外出	9/29 (金)	2名
買い物外出	10/ 5 (木)	2名
買い物外出	10/ 6 (金)	2名
児相交歓大会	10/28 (土)	3名
大相撲九州場所前夜祭	11/ 9 (木)	3名
学卒者日帰り旅行	3/14 (水)	27名
買い物外出	3/22 (木)	2名
買い物外出	3/29 (木)	3名

(園内活動)

花祭り	4/ 5 (水)	全員参加
端午の節句	5/ 6 (土)	全員参加
三寮合同お楽しみ会	5/30 (日)	全員参加
七夕	7/ 1 (土)	全員参加
茶話会	7/19 (金)	学卒

調理実習	8/16 (水)	4名
調理実習	8/25 (金)	4名
お楽しみ会	8/30 (水)	全員参加
生花展覧会	10/28 (土)	18名
クリスマス会	12/22 (金)	全員参加
クリスマス演芸会	12/25 (月)	全員参加
成人の祝い	1/10 (水)	学卒者
節分	2/10 (土)	全員参加
ひな祭り	3/ 4 (土)	全員参加
茶話会	3/ 3 (水)	学卒・卒業生
誕生会	第3土曜日	全員参加

(ボランティア・慰問)

アレンジ教室	毎週木曜日	希望者
生花教室	毎月第2火曜日	希望者
音楽教室	2~3ヶ月の第2金曜日	11名
理容ボランティア	1.5ヶ月毎	全員対象
K2 バンドコンサート	5/30 (日)	全員参加

## 【おひさま寮】

### (生活援助)

おひさま寮では、29年度もユニットケアの充実、継続を実施した。その基本的な考えとして、個別支援計画に沿った業務を理解、意識し利用者様各個人がいきいきとした生活をして頂けるように支援をした。基本的な生活習慣において、医療的ケアが余儀なくされる中でも、利用者様の生きがいを、常に考え少しの変化も見逃さずに、活動を展開し楽しい生活が送れたと思われる。

昨年度同様に午前活動については、ユニット活動の設定をして、音楽、紙芝居、アロマ使用でのタッチケア、散歩(状況に応じて制限あり)、ゲーム等、試行錯誤を繰り返しながらのアプローチに努めた。また、保育士を中心として幼児保育を実施し、カリキュラムに沿って、計画的にアプローチを行い、利用者様の成長を育ててきた。今後も、就学に向けて更なる成長の為、活動内容の充実に取り組んで行こうと考えている。

午後活動では週2回、利用者様、職員、全員参加型の集団レクリエーションを導入し、ゲーム、感覚統合、製作物等、一緒に楽しむ活動内容を実施した。

個別活動については、それぞれの支援計画に沿った余暇活動を実施した。意思伝達出来る利用者様は、余暇活動（PC、音楽鑑賞、お絵かき、塗り絵等）の場の提供に努め、他利用者様には職員からの提供による余暇活動に参加して頂き、表情の引出しに努めた。

その他、園内、園外活動については、担当職員が計画立案をし楽しく過ごせて頂くよう実施した。戸外に出る事として、週末のドライブ外出を実施したが、様々な条件により中々計画通りに実施出来なかった。

移転して5年が経過し、施設の状況や利用者様の生活状況、状態も変化されている事も考慮し業務改善委員会を立上げ、全体的な日課の見直しにも取り組んできた。利用者様が健康、安全で、より快適な生活の支援をした。

## ◎ 慰安・娯楽

(活動内容)

- |     |                               |                    |
|-----|-------------------------------|--------------------|
| 4月  | 花祭り（全員参加）                     | ドライブ外出（4名）         |
| 5月  | 端午の節句（全員参加）                   | 3寮合同レクリエーション（全員参加） |
|     | ドライブ外出（6名）                    |                    |
| 6月  | サーカス招待（2名）                    | ドライブ外出（4名）         |
| 7月  | ドライブ外出（2名）                    | 七夕まつり（全員参加）        |
|     | 盆踊り大会（一部参加、不参加者は病棟中庭にて花火大会実施） |                    |
|     | 買物外出（2名）                      |                    |
| 8月  | 希望外出（2名）                      |                    |
| 9月  | 納涼際（全員参加）                     | 希望外出（2名）           |
|     |                               | ドライブ外出（2名）         |
| 10月 | 運動会（雨天中止にて病棟レクリエーション）         | 希望外出（4名）           |
|     | 久留米児相交歓大会（1名）                 | ドライブ外出（2名）         |
| 11月 | ドライブ外出（2名）                    |                    |
| 12月 | クリスマス会（全員参加）                  | ドライブ外出（2名）         |
| 2月  | 節分（全員参加）                      |                    |
| 3月  | ひな祭り（全員参加）                    | ドライブ外出（6名）         |

## ◎ その他主な活動

- ・毎月第3水曜日誕生会（全員参加）
- ・集団レクリエーション（週2回）
- ・幼児保育（週5回）
- ・理容（2ヶ月1回程度）
- ・音楽活動（日常的に）
- ・居室内レクリエーション（月2回）

## 【ともだち寮】

(生活援助)

29年度の事業計画に基づき、人権擁護面からサービスの見直し改善に心がけてきた。その中でもサービスの標準化をはかる為、QC活動の取り入れ又、管理部との話し合いのもと、ドライブ外出にバス使用が出来るようになったことで、ドライブの回数が増え、自己表現の難しい利用者様にも幅広いサービスの提供に繋がったものと思われる。今後も改善を繰り返しながら、一人一人にあったサービスを模索し提供して行きたいと考える。

(園外活動)

(1) ドライブ外出(土曜PM・平日AM)	年間一人6回程度参加
(2) 久留米児童相談所管内交歓大会	10/22 3名参加
(3) 身体障害者体育大会	5/ 3 2名参加
(4) 空港外出	8/24, 3/29 4名参加
(5) 公園外出	4/20, 5/22, 6/29, 10/20, 10/30 10名参加
(6) 買い物外出	7/28, 8/4, 9/25, 9/28, 11/21, 11/24, 3/23, 3/26 16名参加
(7) 希望外出	8/12 1名参加

(園内活動)

(1) 花祭り	4/ 5 (水)	全員参加
(2) 端午の節句	5/10 (水)	全員参加
(3) レクリエーション会	5/28 (日)	全員参加
(4) 七夕	7/ 5 (水)	全員参加
(5) お楽しみ夕食会	9/20 (水)	全員参加
(6) クリスマスお楽しみ会	12/22 (木)	全員参加
(7) 節分	2/ 7 (水)	全員参加
(8) 雛祭り	3/ 7 (水)	全員参加
(9) 誕生会	毎月第三水曜日	全員参加
(10) グループ活動	毎週 月, 火, 木, 金 (午前)	4~6名参加
(11) 生花教室	毎月第四火曜日	各3名参加 (計15名)

(生花教室メンバー11名~年間一人4回実施)

<実習生の受け入れ 3寮分>

・精華女子短期大学	59名	・中村学園大学	4名
・西九州大学	8名	・西南学院大学	2名
・西九州大学短期大学部	9名	・福岡こども短期大学	4名



・純真短期大学	35名	・久留米大学	6名
・香蘭女子短期大学	40名	・九州大谷短期大学	6名
・福岡女子短期大学	7名	・福岡女学院大学	7名
・筑紫女学園大学	6名	・福岡教育大学	2名
・中村学園大学短期大学部	8名		

(計 203 名)

<出張関係>

H29. 4. 21	福岡県身体障害者施設協議会平成 29 年度第 1 回研修委員会 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H29. 5. 9・18	平成 29 年度社会福祉施設研修会 新任職員研修 春日市クローバープラザ	保育士 1 名
H29. 6. 7～8	平成 29 年度福岡県相談支援従事者初任者研修会 福岡市ももちパレス	育成員 1 名、保育士 2 名
H29. 6. 12～13	福岡県身体障害者施設協議会第 1 回施設長・職員委員会 飯塚市のがみプレジデントホテル	育成員 1 名、保育士 1 名
H29. 6. 13・27	社会福祉施設役職員研修 基礎研修 春日市クローバープラザ	育成員 1 名、保育士 2 名
H29. 6. 22～23	平成 29 年度強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】 久留米市社会福祉協議会	育成員 1 名
H29. 7. 13～14	平成 29 年度強度行動障害支援者養成研修【実践研修】 久留米市社会福祉協議会	育成員 1 名
H29. 7. 28	第 10 回 SWE 支援ネットワーク会議 久山医療療育センター	育成員 1 名、保育士 2 名
H29. 9. 7～8	第 62 回西日本肢体不自由児施設運営研究会 大分県中津市	育成員 1 名、保育士 1 名
H29. 9. 12	平成 29 年度児童福祉施設新任職員研修会 福岡県教育庁 北筑後教育事務所	保育士 1 名
H29. 9. 13	平成 29 年度福祉サービス苦情解決従事者研修会 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H29. 13～15	第 18 回福祉相談関係職員 講習会 東京都板橋区	育成員 1 名
H29. 10. 5～6	平成 29 年度第 37 回全民連中堅職員研修会 和歌山県西牟婁郡	保育士 1 名

H29. 10. 12～13	平成 29 年度第 36 回九州身体障害児者施設研究大会 沖縄県那覇市	育成員 1 名
H29. 10. 26	平成 29 年度久留米地区『企同推』第 2 回研修会 久留米市地域職業訓練センター	育成員 1 名
H29. 11. 4～5	平成 29 年度福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程管理職研修 福岡市博多区九州ビル	育成員 1 名
H29. 11. 8	2017 年度福岡県サービス管理責任者研修 春日市クローバープラザ	育成員 1 名、保育士 2 名
H29. 11. 14	女性リーダー養成講座 えーるピア久留米	保育士 1 名
H29. 11. 16	平成 29 年度若年者職場定着支援事業 指導者研修 久留米リサーチパーク	育成員 1 名
H29. 12. 5	2017 年度施設職員のための障がい者虐待防止研修 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H29. 12. 6～8	重症心身障害児者施設職員研修会「保育士・児童指導員等コース」 大阪市山西福祉記念会館	育成員 1 名
H30. 2. 14～15	2017 年度福岡県サービス管理責任者研修 春日市クローバープラザ	育成員 1 名、保育士 2 名
H30. 2. 20	福岡県身体障害者施設協議会 第 2 回施設長・職員委員会 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H30. 2. 26	平成 29 年度福岡県障がい福祉サービス事業所等支援員研修 福岡市大博多ビル	保育士 1 名
H30. 3. 13	平成 29 年度 業務目標の設定・管理・達成研修 春日市クローバープラザ	育成員 1 名
H30. 3. 16	平成 29 年度強度行動障害支援者養成研修【基礎研修】 福岡市心身障がい福祉センター	育成員 1 名
H30. 3. 19～20	平成 29 年度強度行動障害支援者養成研修【実践研修】 福岡市心身障がい福祉センター	育成員 1 名

### 《概況》

平成 29 年度は心理療育部として、一般生活援助業務との一部兼務で心理的援助活動を業務指針に基づき展開した。主な内容は、利用者の日常生活の観察、触れ合い並びに治療・検査場面を通じて心理的関係性をつくることである。また重症児・者に対しては、他領域との連携のもと心理的側面から、適正ポジショニング活動やタッチケア、「いい表情づくり」活動などを通じ、個としての尊重を基本として業務を行った。

地域支援としては、子どもの発達や母親の子育てなどの心理相談の要請に対し、市町村と連携・協力しながら、子育て・家族関係・就園・就学、そして発達についてなど心理支援を実施した。それに伴い、外来診察及びコアラ園利用案内さらに来所にての心理相談や外来での心理療育につなげるケースも増加した。保育所等への支援については、定期的な巡回相談が始まった地域においては、それ以前に比べ、小学校への就学委員会での保護者様と学校のよりよい共通理解が図られ、就学案内がスムーズになったとの好評価も得ている。さらに、その他の地域においても、個々の対象児ごとに必要に応じて療育場面の見学や関わり方の方向性などそれぞれの保育所等との情報交換もニーズに応じて行った。

### 《心理療育・相談援助の内容》

「落ち着いているか」「安心しているか」を治療の基点として「人と関われるか」「関わりは適当か」更に「楽しんでいるか」「喜んでいるか」との相互機能関係により個々のニーズに応じ、絵画表現療法、箱庭療法、抱っこ法・タッチケア、遊戯療法・行動療法、カウンセリング、感覚統合法、知育活動、音楽療法などを施行した。心理的関わりの中で、寄りかけられる存在として、日常の触れ合い、遊び、介護、その他を通じての信頼関係作りが主要テーマである。

地域における相談活動においては、母子並行面接を基本として、限られた時間の中でいかに波長を合わせ、行動・状況の背景理解を図り、悩み・心配・不安に寄り添い、より具体的対応や共感的援助をしていけるかを目標に、心理判定並びに相談を行った。

### 【なかよし寮】

- ① 遊びを媒介とした自己表現（投影・情緒解放）
- ② 発達援助＝知育活動（情緒安定を基盤とした認知学習）・感覚運動
- ③ 面談援助 解決→解消（うなずく・聴く・心の汲み取り・共感・発散・個として

の尊重)

- ④ 困った行動（表現として捉える）癖・攻撃・熱発・下痢・身体表現等の理解
- ⑤ 音楽療法（聴く・歌う・奏でる・踊る・合わせる・感じる）
- ⑥ 散歩（寮内・園内・園外）
- ⑦ タッチケア・マッサージ
- ⑧ 知能検査・発達検査
- ⑨ 自由訪室

### 【おひさま寮・ともだち寮】

- ① 多動・興奮行動への対応 散歩法 ―エネルギーの解放―
- ② 腹臥位を基点としたポジショニング（活動協働）
- ③ 面談（心のエントツそうじ・表出能力に応じた受けとめ）
- ④ 音楽療法（聴く・歌う・鳴らす・感じる）
- ⑤ 介護支援
- ⑥ タッチケア、絵本、絵カード、語りかけなど「いい表情づくり」活動  
「集団の中での個としての尊重」
- ⑦ 知能検査・発達検査

### 【児童発達支援センター コアラ園】

- ① 発達支援（個別・集団）
- ② 遊戯療法（感情表現・認知発達・感覚運動調整）
- ③ 音楽療法（歌う、奏でる、踊る、合わせる、聴く 集団／個別）
- ④ 母親等へのカウンセリング（子どもの理解～プラス面へのスポットライト）
- ⑤ 行事（計画立案・実施）
- ⑥ 就学・就園（保育園等）相談援助
- ⑦ 知能検査・発達検査

### 【外来療育】

心理療育部における外来療育は、増加しつつある発達障害（自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、学習障害など）に対する心理的発達支援を行うと共に、心因反応としての神経性習癖（チック、吃音、緘黙など）や、不登校を含む子育て不安などへの精神保健的相談・療育を行った。それらの中に、診察待ち期間の療育・相談、コアラ園の前段階としての外来での個別療育のケースなどを含めた多様な外来療育のニーズに対応させていただいている。

### 《治療対象児・者》

日常の行動観察、生育歴、身体障害の程度、家庭環境などから、精神的サポートの必要性和質に応じて、下記人数に対し、定期的あるいは不定期的に行った。心理的対応の特殊性から、臨時・緊急の場合も多く、他職種との連携をもとに対応を行った。

※短期利用者を含む 単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	計
治療対象児・者 ※	47	42	48	97	234

### 《音楽療法対象児・者》

入所においては表出能力に困難のある利用者を優先的に、必要性に応じて下記人数に対して行った。コアラ園・外来においては、医師の指示または保護者からの要望に応じて対応を行った。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	計
音楽療法対象児・者	16	30	17	23	2	88

### 《心理検査》

知能検査と発達検査は定期的に行い、その他の検査、評価は必要に応じて行った。実施数は下記の通りである。入所の検査においては、本年度は障害程度区分判定に伴い、約 100 件以上の知能検査、発達検査を実施した。

単位：名

	なかよし	おひさま	ともだち	コアラ	外 来	地 域
発達検査	13	34	25	1	1	8
知能検査	17	1	14	16	24	43
性格検査	0	0	0	0	0	0

### 《地域支援》

地域支援事業は市町村の母子保健活動と連携して展開してきたが、保育所等とも情報交換・共通理解に努め、相互の子ども支援に有効に機能した。今後も地域の信頼に適確に応えていく事業展開を目指したい。

昨年度より、年 4 回の北筑後保健福祉環境事務所における乳幼児発達診査事業が再開された。今年は、年 6 回であった朝倉市にこここ発達相談の回数が 8 回に増加し、久留米市の親子のびのび教室は、三潴と城島の開催が一緒となり、新たに親子

のびのび教室相談会が開始となった。

朝倉市	1歳6ヵ月児健診		計12回 対象者340名うち相談者39名 別件12名			
	3歳児健診		計12回 対象者391名うち相談者60名 別件10名			
	朝倉・杷木健診		計5回 対象者61名うち相談者13名 別件5名			
	にこにこども相談		計8回 相談者27名			
	療育支援わいわい学級		計22回 参加児 延べ169名			
うきは市	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者245名うち相談者24名			
	3歳児健診		計6回 対象者269名うち相談者23名			
	すくすく発達相談		計12回 30名			
	療育指導教室(たまご・ひよこ・ぱんだ・らっこ)		計43回 参加児 延べ166名			
	保育所等巡回相談		計46回			
久留米市	田主丸町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者76名うち相談者17名		
		3歳児健診		計4回 対象者94名うち相談者13名		
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者2名		
	北野町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者80名うち相談者14名		
		3歳児健診		計4回 対象者83名うち相談者19名		
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者5名		
	三潴町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者75名うち相談者16名		
		3歳児健診		計4回 対象者94名うち相談者18名		
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者4名		
	城島町	1歳6ヵ月児健診		計4回 対象者65名うち相談者5名		
		3歳児健診		計4回 対象者69名うち相談者19名		
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者3名		
	南部	1歳6ヵ月児健診		計6回 対象者198名うち相談者52名		
		3歳児健診		計6回 対象者163名うち相談者47名		
		ママパパ気持ち楽々相談		計2回 相談者5名		
	親子のびのび教室 (本庁/三潴//南部/北野/田主丸)			計30回 参加児 延べ152名		
	親子のびのび教室相談会			計6回 相談者9名		
	北筑後保健福祉環境事務所		乳幼児発達診査事業		計4回 相談者9名	
	その他の相談対応		電話		3件	
			メール		0件	
来所			34件			
訪問			0件			
診察案内※1		85名 (再診・特児35名含む)				
コアラ園心理療育対象児数		27名	コアラ園心理療育回数		710回	
外来利用児総数		83名	外来心理療育回数		2,865回	
情報提供書作成数※2				115件		

- ※1：年度内に診察に至った方のみ（年度内に診察の予約をした方は省く）を計上。  
（診察予約は、すでに平成31年1月まで入っている状況）
- ※2：①診察に案内した対象児の発達状況や経過を記入した医師への情報提供書。  
②保護者への心理判定報告書。  
③就学に向けて、就学委員会への（保護者を通して）情報提供書。  
④それぞれの寮への心理判定報告書。

<出張関係>

- ・平成29年度 久留米市乳幼児健康診査あり方検討会（8月）
- ・平成29年度 うきは市乳幼児健診実務者会議（12月11日）
- ・相談支援専門員更新研修（12月1日、12月19日～20日）
- ・社会福祉施設役職員研修：新任職員研修（5月9日、5月18日）
- ・児童福祉施設新任職員研修（9月12日）

### 《概況》

医療療育部門における訓練は、すべて医師の処方に基づき個別で実施し、診療報酬は脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）および運動器リハビリテーション料（Ⅰ）で算定請求した。入所部門において6月、9月、12月、3月、リハビリテーション総合実施計画書を作成した。計画書の説明や交付手順は郵送形式とし、返信用ハガキで同意の返事があった方について、リハビリテーション総合計画評価料を算定した。

コアラ・外来部門は、土曜日の利用者など診察の機会そのものが取れない方もいるため、リハビリテーション総合実施計画書の説明をセラピストが行い、その内容を主治医に確認していただき交付した。

毎月第2火曜日に医師、看護師、保育士、心理士、栄養士および訓練部（PT・OT・ST）のスタッフが出席して、リハビリテーションカンファレンスを開いている。今年度は感染症の影響で1月と2月が実施できなかった。内容としては、利用者の外出の機会を増やすための検討および実施について、おひさま寮をモデルとして呼吸器管理の利用者の外出を実施した。

訓練は、利用者の潜在能力や可能性ならびにモチベーションなど多方面から対象児（者）のニーズを見極め、個別に計画を立てて行なうものである。特に、乳幼児期を担当するスタッフは、成長や発達全体を深く理解し、幅広く支援する能力が必要である。そこで、児童発達支援センター契約者に対しては、発達全体の手助けおよび保護者の指導を目的に、PT・OT・STが密に保護者とコミュニケーションがとれるよう集団でのリハビリテーションではなく、個別のリハビリテーションで対応した。

関節の拘縮や変形、異常筋緊張、呼吸問題など生活全般に問題を抱えている重度の障がい児（者）に対しては、独自の姿勢保持具を作製し活用するとともに、他部署の職員に対しても姿勢管理や移動・移乗・食事介助などの方法について、インシアチブを取りアプローチすることで利用者のQOLの向上につなげた。さらに摂食・嚥下機能に問題のある利用者に対しては、嚥下食を導入し、安全で楽しい食事時間の提供を行っている。

各部門の報告は以下に示す。

### ● 理学療法

#### 【なかよし寮】

対象 45 名に対し理学療法士が 2～3 名で個別に実施し、利用者 1 名当たりの訓練



回数は週 1～3 回、年間訓練実施単位数は 8,003 単位であった。

対象児（者）を疾患別にみると脳性麻痺が最も多く、その他は脊椎破裂後遺症、レット症候群、頭部外傷後遺症、筋ジストロフィー、マーシャルスミス症候群、精神運動遅滞などであり、他の疾患と重複する例が多い。

訓練内容は、個々のニーズやレベルに合わせた目標を設定し、基本動作訓練、移動能力訓練、筋力増強・持久力訓練、ROM 訓練、ADL 訓練などの運動療法を実施した。今年度も何度か感染症が流行した時期があったため定期的な実施が行えないこともあったが、概ね利用者の身体能力に大きな変化はなく経過している。

学童児への訓練としては、主に身体機能向上や移動動作獲得などを目的に行なった。

学卒者への訓練は身体機能の維持向上を図ると共に、屋外への外出や複数の利用者とは合同で実施するなど固定したプログラムにならないように心掛けた。また、近年では利用者の年齢も上がってきているため身体機能の低下がみられている利用者もでてきている。そういった利用者に対しては日常生活動作の見直しや装具などの作製も行ない QOL が低下しないよう努めた。

これらの個別・年代別に対応した訓練により移動動作や日常生活動作の維持・向上がみられる例もあり少しずつ成果が表れている。

今後学童児に対しては、卒園後を想定した訓練（ADL 訓練・買い物外出・園外活動）を取り入れ、社会参加・自立に向けて意識を高められるよう支援していく。また、学卒者に対しては今後も年齢が上がることにより身体機能の低下がみられる利用者がでてくることが予想されるが、それぞれの利用者の身体能力に合った日常生活動作を行えるよう支援していきたい。

### 【おひさま寮】

対象 41 名に対し理学療法士 2～3 名で実施（9 月～3 月までは、理学療法士 3 名で対応）。年間訓練実施単位数は、7,623 単位であった。

対象児（者）は、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいを重複している人が多く、加齢に伴う身体機能面の低下や筋緊張亢進など様々な原因により、非対称姿勢をとることが多く、変形・拘縮の要因となっている。また、日常生活は全介助の利用者が殆どであり、人工呼吸器や気管切開・胃瘻の方が増え、日常のリスク管理は非常に重要となっている。

訓練内容としては、変形・拘縮の予防や人工呼吸器や気管切開の利用者の呼吸状態安定を図るためなど ROM 訓練を中心にマッサージ、リラクゼーション、ポジショニング、現在の機能維持・向上、排痰や呼吸介助（スクイーピング）などの理学療法を行った。

人工呼吸器、感染症の利用者は、居室から出る機会が少なく、活動範囲が狭くなる部分もあったが、人工呼吸器を装着した状態での車椅子移動や音楽療法士と一緒に音楽療法をしながら、ROM 訓練やマッサージ、感覚遊びを通じて感染症利用者の楽しみを拡大するように実施した。

スタッフに対しては、利用者 41 名全員を対象に、他職種と情報交換を行ない協力しながら姿勢ケアを促し、情報共有できるように寮内のカンファレンス時に利用者個別の車椅子姿勢やポジショニングなどについて説明を行った。また、個々にあったプロンキーパー・頭部保持クッションや側臥位保持用クッションを作製し、リラクゼーション・排痰・側彎変形・拘縮の進行予防に努めた。学童児に対しては、運動機能や認知機能面の向上を目的に、特別支援学校の担任教諭と情報交換を行い、それによって、利用者一人ひとりにあった QOL 向上を心掛けた。

### 【ともだち寮】

利用者 44 名に対し理学療法士 2～3 名(内 1 名は外来・コアラ園と兼任)で行い、利用者一人あたりの訓練回数は週に 1 回～3 回、年間訓練実施単位数は 7,770 単位であった。

利用者の疾病状況は脳性麻痺(および関連疾病の重複障がいを含む)がもっとも多く、その他、化膿性髄膜炎後遺症、脳損傷後遺症、脳炎後遺症、視力障がいとなっている。

中年期の利用者が多く、年々、四肢の関節可動域や筋力などの身体機能が低下する傾向にある。自身での姿勢管理が難しい利用者も多く、深部静脈血栓症や浮腫の発症、褥創・皮膚炎の既往も多いため、他課にアンケートを実施し車椅子上・ベッド上でのポジショニングを再検討し、それぞれの身体に適合するクッション作製や、褥瘡予防用具などの用意および車椅子の調整などに取り組んだ。

5 月に開催された身体障害者スポーツ大会においては、ともだち寮利用者 3 名が出場された。参加者は大会の数ヶ月前から練習を開始され、生き活きとした表情で練習に取り組まれていた。その内 1 名には、出場するビーンバック投げ競技において最も飛距離が出せる投げ方ができる車椅子の代車を用意した上で練習を重ね、金メダルを獲得された。今年度はともだち寮の参加者全員がメダルを獲得することができ、日常ではなかなか経験できないような達成感を得られたようであった。

## ● 作業療法

### 【なかよし寮】

対象者 44 名に対して、なかよし寮担当作業療法士 2～3 名(内 1 名は外来・コアラ園と兼任)が週 1～2 回個別で行い、年間訓練実施単位数は 6,378 単位であった。

対象児（者）の疾患は、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心として、重度の運動機能障がいおよび重度の知的障がいの重複、精神運動遅滞、ダウン症候群、広汎性発達障がいなどである。

訓練内容は、身体機能面（特に上肢機能）の向上および維持を目的に、ROM 訓練やリラクゼーション、玩具や感覚遊び、作業活動を媒介としたアプローチを行なった。また、身近動作の向上を目標に周辺環境の調整も行いながら、動作に対し直接のかつ反復した取り組みを行った。

3 寮合同のグループ活動では、それぞれ特徴的な障がいがあるにも関わらずゲームや感覚遊びなどを行い、楽しみを共有・共感できる場として活用した。しかし、感染症の関係もあって、実施できない時期も多くみられた。

### 【おひさま寮】

対象 39 名に対し、作業療法士 2 名（6 月より産休となり、H30.1 月～数日間 1 名産休明けになる）が週 1～2 回個別で実施し、年間訓練実施単位数は 3,967 単位であった。対象児（者）は、重度の運動機能障がいや重度の知的障がいを重複した人が多く、視力障がいや嚥下障がい、加齢にともなう身体機能の低下や変形・拘縮など、それぞれ多岐多様な問題を抱えており症状も重度化している。また、人工呼吸器での呼吸管理や胃瘻の方が増えており、日常生活は全介助を要しリスク管理は非常に重要である。

訓練内容としては、身体機能の維持、日常生活動作（以下 ADL）の改善、精神面の安定を目的に関節可動域訓練、ADL 訓練（食事動作）、集団活動、感覚訓練（トランポリン、スイングなど）を行った。また、寮内での生活が中心となっている利用者に対し、散歩や外気浴をしたときに四季それぞれの臭いや視覚からの刺激をより感じてもらうように、畑や花壇に花や野菜を植えるなどの工夫を行なった。また、人工呼吸器、感染症の利用者は、特に居室から出る機会が少なく外部からの刺激も少ないため、PT と学校の先生（学校の先生は学童児を行った時だけ）も加わっていただき合同で場所を変えて音楽療法を取り入れた。年齢や季節に応じた曲の選択や、曲に合わせて楽器を鳴らし、日頃体験できないような活動を取り入れ楽しみの提供を行った。

また、寮内での活動として、毎月その時期にちなんだ壁絵を前年度と同様に引き続き行った。セラピストが介助しながらできる範囲で作業に参加してもらい、全員で一つの作品を作り上げ、居室や保護者との面会場所に展示した。

集団活動でも、前年度と同様で他寮の利用者と楽しみの共有を目的として、3 寮合同のグループ活動を実施した。感染症の関係で集団活動の時間は少なかったものの、季節にちなんだ制作物を作製したり、エアートランポリンなどの感覚遊びやゲ

ームをはじめ、水遊びなど季節を感じる事ができる活動を行なうことができた。活動を通して、利用者同士の交流や楽しい雰囲気を味わうことができ、病棟ではみられない利用者の表情や反応を見ることができた。

### 【ともだち寮】

対象44名に対し、作業療法士2名で週1～2回実施し、年間訓練実施単位数は5,158単位であった。対象児（者）の疾患は、脳性麻痺や水頭症、化膿性髄膜炎後遺症などの中枢神経系の異常による運動障がいおよび知的障がい、染色体異常などであった。年々、加齢に伴う身体機能の低下や変形・拘縮もあり、ADL動作の低下が見られている。

訓練内容としては、身体機能やADL動作、認知機能の維持および向上、情緒の安定やリラクゼーションを目的に行なった。その手段としてROM訓練やADL訓練（食事、更衣、整容）、感覚遊び、製作活動、集団活動などを用いた。

例年実施している他寮利用者とのOT集団活動では、屋外散歩や水遊びなど季節に応じた感覚遊びや製作活動など様々な活動を行うことができ、普段あまり関わる事のない他寮の利用者と楽しみを共有できた。また今年は畑を利用し、芋ほり体験を行うこともできた。

個別活動としては、カレンダー作成や編み物、耳納学園に協力していただき、陶芸作品の製作活動など、個々のニーズに合わせた様々な活動を行い、利用者の楽しみや達成感、他者からの称賛、自己実現につなげてきた。できあがった作品を寮入口にある掲示板に飾ることや身近な人にプレゼントすることで、保護者や職員に見てもらい、感想などを声掛けしてもらいながら、達成感を感じてもらうことができた。また、園芸活動を複数の利用者と協力して行った。季節に合わせた農作物を育てる中で、季節を感じていただき、収穫する喜びも感じていただいた。

## ● 言語聴覚療法

### 【なかよし寮】

なかよし寮の利用者45名に対し、言語聴覚士5名（病棟と外来兼任3名、コアラ外来との兼任2名）が、必要性に応じて週に約1～4回程度実施した。5名とも地域支援事業、児童発達支援センター（コアラ園）、外来と兼任であり、年間訓練実施単位数は8,154単位であった。

対象児（者）の疾患・障がいは、脳性麻痺などの中枢性運動障がいを中心となっているが、聴覚障がい、精神運動遅滞、ダウン症候群、自閉症スペクトラム障がい、筋強直性ジストロフィーなど幅広く、発達段階の程度も幅広かった。

重度の知的発達の遅れが見られる利用者に対しては、楽しくリラックスできる雰囲気の中で、主にスキンシップ、歌遊び、音遊び、楽器遊び、絵本での読み聞かせなど、聴覚、視覚、触覚などのさまざまな感覚を用いた関わりを行い、感覚・認知・コミュニケーション、理解面・表現力（表現方法）の発達を促した。

言語発達の遅れが見られる利用者に対しては、絵本、ままごと、歌遊び、お絵かきといった、遊びを中心としたコミュニケーション言語学習に加えて、絵カードやマッチング、文字学習、音読、挨拶、対話、経験や出来事の語りといった学習言語課題も行いながら、言葉とコミュニケーションと社会性の成長を促した。

音声言語によるコミュニケーションが困難な利用者に対しては、コミュニケーションボード、絵カード交換式コミュニケーションシステム（PECS）、iPadの音声コミュニケーションアプリ、手話などの代替手段、視覚的手段、非言語的コミュニケーションの支援を行った。

麻痺による発声発語障がいや摂食・嚥下障がいが見られる利用者に対しては、アイスマッサージやバンゲード法などの筋刺激訓練、リラクセーション、発声発語器官訓練、構音訓練、摂食嚥下訓練などを行った。

経管栄養から経口への移行途上の利用者には、段階的に食事の形態を上げつつ、様々な味や食感を体験してもらい、他のスタッフと情報交換を行いながら食べる意欲を育てる支援を行った。

食事場面や寮の摂食委員会、給食委員会では、看護・介護・育成・給食・PT・OTと、食事内容、食事量、食形態、介助法、姿勢、自助具など、利用者の食事に関して様々な課題を相談検討し、食事支援の改善を行った。

## 【おひさま寮】

必要性の高い対象者を中心に言語聴覚士3名（内2名は外来・コアラ園と兼任）で週1～2回利用者に個別訓練を実施した。年間訓練実施単位数は3,785単位であった。対象の病名・障がい名としては、脳性麻痺、精神（発達）遅滞などを中心とした身体障がいと知的障がいを併せ持つ重度の重複障がいである。

訓練内容は、口腔機能訓練（口腔とその周辺のケアや活性化を含む）、摂食・嚥下訓練、発声発語器官に対しての筋刺激訓練やマッサージ、ストレッチ、リラクセーション、構音訓練、言語発達を促す訓練、コミュニケーション訓練、音声や音楽を用いた聴覚的な刺激による訓練などを行った。また、コミュニケーションボードを作製し、非言語的コミュニケーション手段の確保を行った。

摂食に関しては、広く摂食・嚥下に関する器官に対して感覚訓練、筋刺激訓練、マッサージ、ストレッチ、脱感作や味覚学習などの口腔内感覚の改善、食物を直接用いない間接嚥下訓練、摂食・嚥下機能そのものの維持・改善訓練、介助法の改善、

食形態の調整、座位での頸部や体幹の姿勢調整、姿勢を安定させ筋緊張を緩和するためのクッションなどの調整、他職種に対して情報の伝達、食べ物に対する心理的拒否に対して安心して食べられるためのアプローチを行った。これらを通じて摂食・嚥下機能の維持・向上を目的に、安心して快適にスムーズに食事ができるための支援を行った。

おひさま寮の最重度の心身障がい児（者）に対して、リラックスした楽しい関わりの中で、心地のよい聴覚的・視覚的刺激や身体的感覚などが充足できるアプローチを通して、心身が満たされ、ゆったりと落ち着くことができるような関わりを持ち、感覚・認知・理解面の成長も促した。

iPad やパソコンなどの機器を用いて、重度心身障がい児（者）でも楽しめ使用可能な機能を使って効果的に発達を促し生活の充実を目指した。

呼吸器系障がいに対しては、排痰、口腔内清掃やマッサージなどによる口腔内機能の活性化および表情筋の固縮の予防を行っている。呼吸器やそれらに関連する器官の環境を整え、できる限り状態を改善して穏やかに生活できるよう支援を行った。

## 【ともだち寮】

対象 45 名に対し言語聴覚士 2 名（12 月より 1 名）で、週に 1～2 回実施した。年間訓練実施単位数は 3,210 単位であった。

対象者は脳性まひ、MR、てんかんなど様々で、年齢も 10 代から 60 代と幅広い。

話すことが難しい利用者に対しては、コミュニケーションボードの練習、パソコンやスイッチの使用を行った。また、iPad やスイッチを使って自分で機器を操作して主体的にコミュニケーションし楽しく活動をする取り組みを行なった。さらにパソコン操作訓練の一環として、インターネットで関心事を検索および動画を見るなどして余暇活動の充実を図った。

音声、発音面の訓練としては、構音訓練、会話や発声、唄を歌うなどの発声発語器官の運動による訓練などを行った。

摂食・嚥下に関しては、食事の中で機能を引き出す訓練、介助法の改善、姿勢の調整、食形態の調整、使用する食器具の検討などを行った。特に経管栄養の利用者へは口腔機能の維持や唾液の誤嚥による誤嚥性肺炎予防のため、口腔ケアやマッサージ、嚥下反射を促す訓練などを行った。また、プリンやゼリーなどの甘いものを中心に、嚥下訓練を行い、経管栄養の方にも味覚を楽しんでもらえるような訓練を実施した。

また、ともだち寮食事委員会での活動も継続的に行い、食事に関する問題点に対して他職種と共にアプローチを行った。

## 『コアラ園及び外来』

### ● 理学療法

対象 75 名（契約利用者 9 名、外来利用者 66 名）に対し、外来担当理学療法士 2 名を中心に実施し、利用者 1 名当たりの訓練回数は週 1～2 回、年間訓練実施単位数は 4,195 単位であった。

対象児（者）は、脳性麻痺、または脳血管疾患を原因とする重症心身障がいや肢体不自由児、ダウン症候群などの遺伝子疾患、精神運動発達遅滞などとなっており、年齢も 1 歳未満の乳幼児から成人までと幅広い。

以下年代別に取り組みを報告する。

#### ○乳幼児期から学童期

運動発達の促進や基本動作能力の獲得を目指し実施した。遊びの中で寝返る、座る、歩くといった基本動作能力の向上を図りながら、自ら動く楽しみを感じていただけよう促した。その一環として、必要に応じて自助具や姿勢保持用クッションの作製や提供、補装具（車椅子や歩行器、各装具など）の提案を行なった。そのことで身体機能面の向上だけではなく、情緒面の発達および生活場面の中での自立を促した。また、保育所や保護者との情報交換を行ない、生活内の各場面においてその子の身体状況に合わせた介助方法や運動の促しの助言や指導を行なった。

#### ○学童期から青年期

運動機能の維持向上の他に、二次障がいの予防、介助者の介助量軽減などを個々のニーズに合わせた目標に応じ実施した。継続的な運動能力向上はもとより ADL に必要な動作の練習や環境調整を保護者や支援学校・地域の小学校の先生と情報交換を行ないながら実施した。

重症心身障がい児（者）においては、二次障がいによる脊柱の変形や運動機能の低下を経年的に評価する目的で、側彎の形態や下肢を中心に関節可動域の測定を適宜実施した。第二次成長期に伴い、脊柱の変形による側彎の進行や下肢の関節拘縮が認められる方が増えている状況である。家庭や地域施設で姿勢ケアが実施できるようにクッションを作製し、使用方法を指導したのちに提供している。身体機能面を維持し、介助量の軽減やレスパイトケアなどの福祉サービスの提供について、地域事業部（夢の紀）のスタッフと連携を行なうなどの、多面的な支援も行った。

#### ○耳納学園の利用者

運動能力の維持向上を主要な目的として定期的なリハビリテーションを実施した。耳納学園は生活や仕事の場であるため、その中で問題となり得る動作についても検討評価し訓練を実施した。

## ● 作業療法

対象 169 名（契約利用者 65 名、外来利用者 104 名）に対し、作業療法士 2 名を中心に訓練を実施した。利用者 1 名当たりの訓練回数は月 1～4 回、年間訓練実施単位数は 7,182 単位であった。

対象児（者）は発達障がい（自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動症）、脳性麻痺、神経筋疾患、さらに精神運動発達遅滞など多岐にわたり、対象者も年々増加傾向である。

訓練内容は、トランポリンやボールプール、スイングなどの遊具遊び、縄跳びや鉄棒などの運動遊び、パズルや運筆活動などの机上活動、ままごとなどのやりとり遊びを通じて、こどもの発達課題（運動面・日常生活技能・学習基礎能力）や成功体験を通しての自己評価の向上など、個々の必要性に応じた取り組みを実施した。また、日常生活で配慮すべき点や介助方法などはもちろんのこと、保護者に対し我々スタッフも理解者としての立場を大切にしながら話を聞き、助言・アドバイスを行ってきた。

訓練場面以外でも日常生活で主となる保育園・幼稚園・学校の先生方との情報の交換および共有を行ない、お互いの療育に活かせるように努めた。さらに、小学校就学を控え通園部門を卒園される児童の進路に関わる各関係機関に情報提供を行い、卒園後の支援について提案や意見交換にも取り組んだ。

## ● 言語聴覚療法

対象 184 名の外来利用者に対し、週 1～2 回、1 回 2 単位（40 分）を基本として、言語聴覚士 2 名を中心に訓練を実施した。年間訓練実施単位数は 7,349 単位であった。

対象児（者）は発達障がい（広汎性発達障がい、注意欠陥・多動障がい、学習障がい）、言語発達遅滞、精神運動発達遅滞、構音障がい、脳性麻痺、ダウン症などの症候群、摂食・嚥下障がい、難聴、吃音と多様であり、また対象児（者）の年齢や発達段階も幅広い。

訓練においては、まず観察評価や保護者などからの情報収集、その様子から必要と思われる各種検査を選択・試行した。その後、それらの結果から一人ひとりに応じた訓練プログラムを立案し試行した。また、必要に応じて保育園・幼稚園・学校の先生方とも情報交換を行い、療育に活かせるように努めた。

訓練内容は、各種玩具を用いる遊びを中心とした課題から、絵カード課題や各種マッチング課題などを中心とした机上課題、場面設定を行った上でのソーシャルスキルトレーニングなどを試行し、言語面・コミュニケーション面の能力向上を目標に実施した。摂食訓練の際には、給食時間への介入、定期的な評価、訓練、指導を行なった。



訓練場面だけでなく、就学後の定期的なフォローや、対象児（者）への接し方の指導、問題とされる行動が見られる理由の分析から環境調整のアドバイス、構音訓練の宿題の提供。また、利用者と共に保護者（支援者）の想いも受け止めるなど、日常生活場面においても、対象児（者）の成長につながるよう努めた。さらに、聴覚スクリーニング検査や、他医療機関との連携にも積極的に取り組んだ。

<地域支援事業等>

1. 肢体不自由児早期訓練事業（県肢体不自由児協会委託、飯塚市）  
     医師 1名・・・2回      PT、OT 各1名・・・22回      ST 1名・・・6回
2. 子どもの療育相談（上陽町）  
     OT 1名・・・23回
3. 乳幼児発達診査（県環境福祉事務所委託、朝倉市）  
     ST 1名・・・4回
4. 発達相談（朝倉市）  
     ST 1名・・・8回

<実習生の受入状況>

【理学療法士】

平成29年 5月 8日	～	7月 7日	柳川リハビリテーション学院	1名
5月 8日	～	7月 7日	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名
7月 24日	～	9月 22日	熊本総合医療リハビリテーション学院	1名

【作業療法士】

平成29年 7月 31日	～	10月 7日	麻生リハビリテーション大学校	1名
施設見学				
平成29年 6月 22日			麻生リハビリテーション大学校 昼間部	36名
平成28年 6月 29日			麻生リハビリテーション大学校 夜間部	19名

【言語聴覚士】

平成29年 7月 11日	～	8月 19日	メディカルカレッジ青照館	1名
7月 11日	～	8月 19日	国際医療福祉大学	1名
8月 28日	～	10月 6日	柳川リハビリテーション学院	1名

## 地域事業部

### 《概況》

地域事業部は、福祉や療育など何らかの支援を必要とされる方々の多様な問い合わせに対して、法人内全事業所の機能紹介や利用手続きの説明、更には利用に繋がるケースについてはスムーズに繋がるよう当該者と事業所間の連携・調整を図る目的で機能した。

対象地域は、久留米市、うきは市、朝倉市及びその近隣地域としているが、対象地域以外からの問い合わせも多数あった。

地域に出向き実施する在宅児に対する支援は、地域事業部が担うタイムケア事業や心理療育部やコアラ園保育士などが協働で取り組む久留米市、うきは市、朝倉市との委託契約による乳幼児健診での発達相談、その後のフォロー教室等も順調に遂行できた。

### ＜相談支援事業＞

地域事業部が受け付けた相談や問い合わせ件数は、次の表の通りである。多くはご本人様（ご家族）からの問い合わせであり、その他に相談支援事業所や行政、医療機関のSWからの問い合わせである。また、相談から実際にゆうかり学園事業所のサービスに繋がった件数も報告する。

相談内容	相談件数	利用につながった件数
① 施設入所支援について	39	2
② 短期入所・日中一時支援について	22	3
③ 児童発達支援について	23	5
④ 放課後等デイサービス利用について	2	2
⑤ 外来療育・リハの利用について	77	26
⑥ 見学依頼など	27	16
⑦ その他の相談	27	2

①施設入所については、39件の問い合わせに対して法人全体で2名の入所支援につながっている。問い合わせの大多数が、人工呼吸器使用の重症の方や介護保険が適応されるような高齢の方が多い。療養介護や生活介護への入所は、見学後キャンセルされたり、重症者への対応の困難性などによりお断りしたケースもあった。

②短期入所や日中一時支援についての問い合わせも、重症や多動の方、衝動性のある方が多く、在宅での支援の難しい現実が感じとれる。また、呼吸管理の必要な方など重症児（者）の利用が困難な状態であり、今後の課題といえる。

③児童発達支援については、利用を希望され契約まで至ったケースは5例である。

受付後、診察までかなり時間を要しているため、療育現場ではお試し利用やつなぎ療育などで少しでも早く療育につなげるよう工夫している。

④放課後デイサービスは、15時以降は実施できているものの、希望の多い長期休み中や15時以前の利用が実施できていないことが課題である。利用をコアラ園へつなげたケースは2件である。

⑤外来療育・リハについては、相談77件中26件が診察を経て訓練部や心理療育部の療育・リハにつなげている。29年度中に受け付けた方がまだ診察まで至っていないため、今後利用者の増加の可能性はある。

⑥見学依頼については、ほぼすべての依頼に対応できた。感染症が心配される11月から2月の間は、見学を制限したり日程や見学ルートを変更して対応した。

⑦その他の相談は、法人内事業所の受け入れ状況や利用手続き、計画相談、実習依頼、偏食の問題、セカンドオピニオンの内容、DVに関する相談など、多岐にわたった。

#### <受診予約調整業務>

相談受け付けの後利用や診察を希望されたケースについては、外来や関係部署と連携をとりながら受診日予約及び事前の見学・説明等を行い、利用者にとって少しでも安心してスムーズな利用開始につなげるよう心掛けた。相談から受診（利用）までの期間が長期におよぶ点が課題である。

#### <短期入所予約調整業務>

ゆうかり医療療育センターにおける短期入所及び日中一時預かりの予約受付と調整業務を地域事業部で行い、スムーズな利用につなげた。毎回、前月の10日までに利用予約を受け付け、15日までの間に調整会議を開き利用日を決定した。冬場は、感染症等の影響によりお断りするケースもあった。

(年間利用延べ人数)

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
なかよし寮	宿泊	0	3	2	6	27	4	9	12	0	0	4	17
	日中	13	9	13	11	18	14	15	11	6	7	5	13
おひさま寮	宿泊	11	11	18	16	10	13	20	14	8	8	8	18
	日中	8	7	12	9	8	8	9	9	8	7	8	3
ともだち寮	宿泊	11	17	16	35	24	6	24	14	11	7	11	4
	日中	12	14	9	9	7	11	5	8	3	4	2	6

#### <在宅支援業務>

地域事業部並びに夢の紀スタッフが出向した在宅児・者支援は、次の表の通りである。平成30年3月のタイムケア事業は当該利用者の卒業に伴い0件、わいわい学

級は2月よりコアラ園スタッフに全て移行し、地域事業部としては0件であった。

事業名	実施場所	回数
久留米市タイムケア事業	久留米市立屏水中学校	72
朝倉市療育支援事業わいわい学級	朝倉市ピーポート甘木	20

#### <施設見学案内>

平成29年度中に地域事業部が受け付け案内した外部の組織・団体は、11団体計186名であった。

団体の内訳は近隣地域の行政・福祉関係団体が多く、ゆうかり学園の概要や業務内容を知りたいという目的のほか所属団体のフォローアップ研修の一環としたものもあった。7月26日に予定されていた朝倉市民生委員児童委員協議会42名の見学が、九州北部豪雨の影響で急きょ中止になるということもあった。

見学案内の方法は、法人の沿革や施設の概要を説明し学園紹介DVDを視聴後、基本的に本館棟、ゆうかり医療療育センター3寮、地域支援棟・コアラ園、調理環境、千歳療護園および第二千歳療護園、耳納学園の順で巡回・案内した。見学案内の時間は概ね2時間ほどを要するが、時間の制限がある場合や冬場の感染症発生時は、案内区域を限定して対応した。

見学案内の詳細は、以下の通りである。

月	日	曜日	時間	団体名	人数
4	25	火	10:30~11:30	からつ医療福祉センター久里双水園職員	5
5	17	水	11:00~12:30	田主丸町婦人部	20
6	21	水	10:00~11:00	久留米特別支援学校利用家族、職員	5
8	9	水	10:30~11:30	福岡県共同募金会久留米支会会員	38
9	20	水	13:00~16:00	うきは市地域障害者協議会会員	30
9	28	木	13:30~16:00	若楠療育医療センター利用者、保護者、職員	13
10	19	木	10:00~11:30	長光園利用者家族会、担当職員	20
11	30	木	13:30~15:30	筑後市地域自立支援協議会会員	14
3	5	月	10:30~12:00	日田市療育支援関係担当職員	15
3	9	金	13:30~15:00	日田市療育支援関係担当職員	18
3	9	金	10:00~12:00	久留米市上津校区人権啓発推進協議会会員	8

#### <出張関係>

8月8~9日	小児慢性特定疾病児童等自立支援事業自立支援員研修会	看護師	1名
7月31日	地域貢献研修	相談支援専門員	1名
8月17日	人権啓発セミナー	相談支援専門員	1名

8月29～30日	県サービス管理責任者研修	相談支援専門員1名
9月13～15日	福祉相談関係職員講習会	相談支援専門員1名
10月4,12月5日	社会福祉士会人権研修（ファシリテーター）	相談支援専門員1名
11月17日	八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会	相談支援専門員1名
12月7～8日	九州相談支援事業所合同研修会	看護師 1名
12月23～24日、1月20～21日	医療的ケア児等コーディネーター養成研修	相談支援専門員1名
3月19日	県相談支援従事者専門コース別研修（意思決定支援）	相談支援専門員1名

#### <その他>

- ・ 県小児慢性特定疾病児童等自立支援連絡会…6回
- ・ 久留米市相談支援事業所連絡会（久留米市相談ネット）…12回
- ・ 久留米市地域生活協議会（施策推進部会、重心部会）…11回
- ・ 久留米市障害者基幹相談支援センター報告・研修会・勉強会…3回
- ・ 久留米児童相談所管内交歓大会実行委員会…12回
- ・ 久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業関連会議…14回
- ・ 久留米市ライフレスキュー事業連絡会・作業…4回
- ・ 久留米市新サービス・報酬改定説明会…2回
- ・ うきは市要保護児童対策地域協議会実務者会議…4回
- ・ うきは市地域障害者協議会…5回
- ・ 相談支援ネットワーク会議（療養介護事業所相談支援連絡会）…2回
- ・ 筑後地区療育システム協議会…8回
- ・ 田主丸特別支援学校連絡調整会議・研修会・相談会…7回

## 給食部（中央給食）

給食部理念：栄養管理・健康管理に努め、真心のこもった調理で食の喜大切さを伝える。

### (1) 区分別熱量

ゆうかり医療療育センター、耳納学園、千歳療護園の区分別熱量に差があるので、副食の量をそろえ、主食の量で調整している。

(単位 Kcal)

	ゆうかり	千歳	耳納	
			男	女
中			2,275	
A	2,420	2,000		
B	1,920	1,550	1,710	1,550
C	1,560	1,250		1,450
D	1,270			
E	1,050			

### (2) 行事食

平成 29 年

- 4/6 千歳療護園開園記念日 弁当、ケーキ、すまし
- 4/13 耳納学園開園記念日 焼きそば、お好み焼き
- 5/28 ゆうかり医療療育センター3 寮合同レクリエーション
- 6/4 ちとせ祭 カレーライス他
- 6/22 耳納学園夕食会 ステーキ、サラダ、アイスクリーム
- 8/1 第二千歳開園記念日 弁当、ケーキ、すまし
- 8/11 耳納学園お楽しみレクリエーション ステーキ、野菜、ウインナー、おにぎり
- 8/18 60 周年・生誕 100 周年食事会 弁当・ケーキ
- 8/30 なかよし寮お楽しみ会  
コロッケ、ひじき含め、デザート（アイス、フルーツ、ケーキ）
- 8/31 千歳療護園納涼祭 焼き肉、サラダ、おにぎり、アイス、スイカ  
たこ焼き
- 9/19 耳納学園夕食会 ビーフシチュー、サラダ、梨
- 9/20 ともだち寮お楽しみ会 フルーツバイキング  
メロン、イチジク、バナナ、梨、マンゴープリン  
生クリーム、あんこ、黄粉、はちみつ、フルーツソース
- 11/ 3 特別支援学校文化祭 弁当  
御飯、焼き魚、エビフライ、サラダ、シューマイ、きんぴらごぼう

トマト、レタス

- 11/21 耳納学園 夕食会 ちゃんこ鍋、もつ鍋
- 12/14 千歳療護園浮羽消防署指導避難訓練、餅つき慰問  
餅（おろし餅、あん餅）おにぎり
- 12/24 ゆうかり医療療育センター クリスマス会  
オードブル（グラタン、焼き肉、テリーヌ、角煮、ポテトサラダ、  
ロブスター、ナポリタン、）  
ケンタッキーフライドチキン盛り合わせ、  
フルーツ・ケーキ盛り合わせ、飲み物  
おにぎり、いなりずし（なかよし寮、ともだち寮）  
茶わん蒸し、ご飯（おひさま寮）
- 12/24 千歳療護園忘年会  
おにぎり、いなりずし、巻き寿司、サラダ巻き、納豆巻き  
フライドチキン、焼き肉、ロブスター  
テリーヌ他弁当形式  
おつまみ、ケーキ盛り合わせ、飲み物
- 12/24 耳納学園  
昼 餅つき（餅、餡子、黄粉、大根おろし、醤油）  
夜 忘年会  
ケンタッキー盛り合わせ、ロブスター、カニの爪  
ポテトサラダ、寿司盛り合わせ、フルーツ、飲み物

平成 30 年

- 1/ 1 おせち料理 （昼）  
がめ煮、干支かまぼこ、昆布巻、エビのつや煮、テリーヌ、伊達巻、  
紅白なます、寿羊羹、イカの黄味焼、牛肉の八幡巻、栗きんとん  
あけぼの巻、数の子、いちご、トマト、パセリ、サニーレタス
- 1/ 7 七草の味噌汁 千歳のみ 七草粥
- 1/16 耳納学園一日レクリエーション（喫茶）  
フルーツケーキ
- 2/15 耳納学園「ラーメンを食べよう」 大龍ラーメン、ごはん
- 3/22 耳納学園夕食会 中華丼、たまごスープ

(3) 研修関係

- 平成 29 年 6 月 特定給食施設等研修会 (久留米市)
- 8 月 病院立ち入り検査説明会 (久留米市)

9月 西日本肢体不自由児施設運営研究会 (大分県)

10月 全国重症心身障害児(者)施設職員研修会 (大阪市)

平成30年

3月 重症児(者)食・栄養研究会 (熊本市)

3月 特定給食施設等研修会 (久留米市)

(4) 実習生の受け入れ

6/12(月)～6/17(土)

中村学園大学より栄養士2名

6/19(月)～6/24(土)

久留米信愛女学院短期大学より栄養士3名

(5) 衛生管理

- ① 食品の納品時、品質のチェックと納品時間記入(冷蔵品は表面温度記入、冷凍・冷蔵品は収納庫の温度記入)
- ② 手洗い液(アルボース)による手洗いとウェルパスによる消毒の励行
- ③ 調理時、中心温度計にて中心温度測定、記入
- ④ 調理の出来上がり時間記入
- ⑤ 調理後、冷蔵庫に入れるものは入れた時間・温度記入
- ⑥ 調理器具やシンクの除菌にアルコール、バリアス1(食品添加物除菌剤)使用
- ⑦ 冷蔵庫の清掃、温度記入
- ⑧ 調理室の温度・湿度記入
- ⑨ 検収室の温度記入
- ⑩ 盛りつけ時、使い捨て手袋、使い捨てマスク使用
- ⑪ 洗浄室、下処理室にて専用のエプロン、スリッパ使用
- ⑫ 水質検査 始業前、終業後に残留塩素測定(毎日)  
業者による管理(毎月)
- ⑬ 細菌検査(検便)  
腸管出血性大腸菌(0-157他)を含む病原腸内細菌検査(毎月)  
ノロウイルス抗原検査 10月、3月
- ⑭ 業者(トキワビル)によるネズミ・ゴキブリ駆除 毎月

(6) 給食委員会

ゆうかり学園



構成メンバー 所長、事務局長、看護部長、薬剤師  
看護課、育成課、訓練課、給食部より代表者  
園生代表者（ともだち寮2名、なかよし寮2名）

開催回数 月1回

#### 耳納学園

構成メンバー 利用者様全員、厚生課2名、栄養士

開催回数 月1回

#### 千歳療護園

構成メンバー 利用者4名、総務、医務、サポート係、  
パートナー係、訓練、栄養士

開催回数 2ヵ月に1回

#### 内容

各施設で構成メンバーは違うが、毎月の誕生会のメニューや行事食について話し合いをしている。行事食については、実施後、感想・意見を出してもらって次回の計画に反映している。形態についても、それぞれの施設において異なるため、希望に添うよう給食で調整をしている。

#### (8) まとめ

中央給食で年齢の幅が広いとため、大人向けから子供向けの料理を提供している。入所者の高齢化・重度化にともない食形態についても見直しの必要性が高まり、ソフト食を数名の方に夕食のみ提供を行ってきた。導入に向けて、今後も作業の見直しを図り、昼食、朝食も導入できるよう、取り組んでいきたい。メニューについても、低脂肪で高たんぱくなものを取り入れるなど、利用者に合わせて、変化させてきた。塩分についても、少しずつ醤油や塩を減らし薄味にしてきた。今後も、利用者様が健康で楽しい生活が送れるよう食事の面から支援していきたい。

	ゆうかり	千歳・第二千歳	耳納
4月	焼肉丼	カツカレー	オムライス
5月	カレーライス	ピースごはん	お子様ランチ風
6月	ビビンバ丼	鮭いくら飯	角煮
7月	親子丼	親子丼	油淋鶏
8月	シシリアンライス	ハンバーグ	
9月	ハンバーグカレー	から揚げカレー	ちらし寿司
10月	ちらし寿司	栗ごはん	焼肉丼
11月	ステーキ丼	焼き鳥丼	カツ丼
12月	オムライスデミソース	天丼	チキン南蛮
1月	ハンバーグカレー	石狩鍋	ビビンバ丼
2月	焼肉丼	かしわごはん	唐揚丼
3月	カレードリア	オムカレー	ビビンバ丼

※千歳・第二千歳では、利用者様の誕生日に希望のメニューを提供しています。

《概要》

本年度の新任職員研修は初めて3回に分け、3日間実施した。1回目（4月3日）では学園の組織や沿革、各部署の業部など入職にあたっての必要な内容で研修を行い、2回目（11月7日）では理事長講義、職員としての基本的な仕事の進め方について、3回目（3月1日）では他部署での仕事体験、入職以来の仕事の取り組みや進め方を振り返って現状把握、意見交換などするフォローアップ研修を行った。対象者は、1回目15名、2回目15名、3回目15名であった。

こもりぐま保育所

本園では、家庭に代わり子供達を預かり家庭内の温かさにより近づけるよう、愛情溢れたスキンシップの保育を目指してきた。健康で意欲的、創造的な心と身体を育成する目的で、戸外活動も取り入れており、自然に恵まれた環境の中、四季折々の果物・花・虫などと触れ合っている。また、毎年恒例のバス遠足と、月1回の買い物は、子供達が楽しみにしている行事のひとつである。

その他、個人の能力、年齢に合わせた生活習慣の習得を子供の発達状態をよく見極めて、無理なく個別指導をしている。そして、集団の中における協調性を遊びの中で養ってきた。

本園がまず何よりも、大切にしているのは家庭的雰囲気の中での保育である。そのためにも健康状態など、家庭との連絡を密に心掛けている。

【 平成29年度 利用児 】  
延べ 563 人 開所日数 218 日 1日平均 2.6 名

【 バス遠足 (H29.5.23) 】  
うみたまご

## 児童発達支援センター コアラ園

福祉型児童発達支援センターとして、3事業(①児童発達支援 ②放課後等デイサービス ③保育所等訪問支援)に取り組む。

### ① 児童発達支援

日常生活における基本的な動作の指導、知識技能の付与、集団生活への適応訓練等の便宜を付与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日に、「あそび教室」というかたちで、グループ療育及び個別療育を実施した。内容として、日常生活動作(食事・排泄・衣類着脱等)の獲得及び、小集団での行動獲得を基本療育とし、感覚あそび、知育あそび、歌あそび、製作、母子あそび、運動あそび、プール、戸外あそびなどのカリキュラムを、個々の成長段階に合わせて提供した。遊びを通しての楽しさ、自己表現、作品完成への自信や達成感を味わうことを大切にし、不快ではなく、快な状態を出来るだけ多く提供する事を心掛けながら進めていった。

また、母子関係の安定と充実に努め、そこから対人関係づくりへと発展出来るように配慮し、集団における社会性や協調性を伸ばすことも目的とした。

年間行事としては、

園内行事：親子レクリエーション(6/24(土)交流ホールにて39名参加)

母親講座(9/27(水)研修室にて32名参加 講師：姫野参与)

クリスマス会

(12/13(水)年長児15名参加・12/14(木)年中児17名参加

・12/15(金)年中児、年少児11名参加・12/18(月)未満児、年少児10名参加

・12/19(火)年少児12名参加)

卒園式(3/16(金)18名参加)

園外行事：お楽しみ活動として、「くるめウス」見学、ダイソーでの買い物、ドライブ、映写会などのコースを体験する(11/14(火)～11/16(木))

ゆうかり学園盆踊り花火大会(7/20(木)朝倉地区豪雨災害の為、中止)

ゆうかり学園運動会は雨天中止となる(10/15(日)東部運動公園にて予定)

また、月1回の避難訓練(11月は消防署員立会い)を実施し、避難誘導等の訓練を園児、保護者と共に体験した。

その他、就学を迎える園児の保護者に対し、特別支援学校(4校)、特別支援学級(16校)の見学案内を行うとともに、並行通園をしている保育園、幼稚園への情報提供書作成や園内見学等の受け入れも行った。また、地域へも出向き、久留米市、うきは市、朝倉市と連携をとりながら保育療育・子育てに関する相談業

務を行い、地域支援、子育て支援を行った。

年間で97名の契約利用児を受け入れ、1日平均で約15～20名が利用する。

## ② 放課後等デイサービス

生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進その他の便宜を供与することを目的とし、月曜日～金曜日の週5日、15時～18時の時間帯で就学児を受け入れる。

田主丸特別支援学校の生徒6名（高校生1名、中学生2名、小学生3名）

久留米特別支援学校生徒2名（高校生1名、中学生1名）

小郡特別支援学校生徒1名（小学生1名）

うきは市立山春小学校生徒1名

計10名が年間で利用する。

## ③ 保育所等訪問支援

当該施設を訪問し、当該施設における障害児以外の児童との集団生活への適応のための専門的な支援その他の便宜を供与することを目的とし、年間で7名の利用あり。

朝倉市立石保育所 1名 4回訪問

朝倉市三奈木保育所 1名 5回訪問

久留米市菅原保育所 1名 5回訪問

久留米市高良内保育園 1名 6回訪問

久留米市大橋保育園 1名 1回訪問

久留米市柴刈小学校 1名 7回訪問

うきは市吉井小学校 1名 5回訪問

## <学校見学案内>

	期 日	学校名	参加保護者数	参加園児
1	6/ 1(木)	田主丸特別支援学校	2	2
2	6/13(火)	小郡特別支援学校	5	3
3	6/16(金)	朝倉市立馬田小学校特支学級	1	1
4	6/20(火)	久留米市立田主丸小学校特支学級	1	1
5	6/20(火)PM	久留米市立柴刈小学校特支学級	1	1
6	6/22(木)	久留米特別支援学校	5	3
7	6/22(木)PM	久留米市立東国分小学校特支学級	1	1
8	6/23(金)	朝倉市立甘木小学校特支学級	2	2
9	6/28(水)PM	みやま市立下庄小学校特支学級	1	1
10	7/ 5(水)	久留米市立青峰小学校特支学級	1	1
11	7/ 6(木)	久留米市立南薫小学校特支学級	2	2
12	7/ 7(金)	朝倉市立三奈木小学校特支学級	2	2
13	7/14(金)	久留米市立宮ノ陣小学校特支学級	1	1
14	7/18(火)	久留米市立善導寺小学校特支学級	1	1

15	7/18(火)PM	久留米市立山本小学校特支学級	1	1
16	7/19(水)	うきは市立山春小学校特支学級	1	1
17	8/28(月)	朝倉市立三奈木小学校特支学級	1	1
18	9/ 4(月)	久留米市立田主丸小学校特支学級	1	1

<心理検査>

発達検査	1
知能検査	25

上記の様に、必要に応じて発達検査並びに知能検査を行い、対象児の課題等を見  
つけ出すと共に、今後の療育方針を決定する上での参考資料としていった。

また、就学を迎える年長児への情報提供として実施した。

<通園児診断名>

診 断 名	該 当 児
構音障害	80
発達性協調運動障害	79
言語発達遅滞	74
自閉症スペクトラム障害	49
精神運動発達遅滞	66
運動発達遅滞	8
ダウン症候群	2
自閉症	4
摂食機能障害	1
注意欠陥多動性障害	7
知的障害	6
多動性障害	2
ピエール・ロバン症候群	1
細菌性髄膜炎後遺症	1
大脳萎縮	1
筋緊張低下症	3
右先天性難聴	1
左小眼球症	1
嚥下機能障害	1
CHARGE 症候群	1
歩行障害	1
筋力低下	5
未熟児網膜症	3

筋緊張亢進	2
難聴	1
契約児 75 名（診断名複数該当あり）	

<出張関係>

出張名	出張者	期 日	会 場
第 1 回施設長研修会	園長 1 名	H29. 5/19	ANA クラウンプラザホテル 福岡
福岡県相談支援従事者 初任者研修	保育士 1 名	H29. 7/25・7/26 H29. 8/28	九州ビル 大ホール
第 12 回「ペアレントトレー ニング」リーダー講習会	保育士 1 名	H29. 8/22～8/29	心身障害児総合 医療療育センター
福岡県強度行動障害 支援者講習会	保育士 1 名	基礎研修 H29. 6/22～23 実践研修 H29. 7/13～14	久留米市総合福祉センター
「我が事・丸ごと」 地域貢献セミナー	園長 1 名	H29. 7/31	JR 九州ホール
労務管理研修	園長 1 名	H29. 8/ 2	クローバープラザ 春日市
社会福祉法人 制度改革対応セミナー	園長 1 名	H29. 8/ 8	九州ビル 大ホール
福岡県相談支援従事者 現任研修 更新者コース	保育士 1 名	H29. 12/ 1 H29. 12/19・12/20	電気ビル 本館カンファレンス
第 3 回児童福祉施設連絡協 議会 意見交換会	保育士 1 名	H29. 12/ 1	久留米児童相談所
第 50 回幼児通園療育職員講 習会	保育士 1 名	H30. 1/29～2/ 2	心身障害児総合 医療療育センター
久留米市障害者基幹相談支 援センター報告会・研修会	園長 1 名	H30. 2/ 8	久留米シティプラザ 大会議場
第 4 回社会福祉法人 経営者セミナー	園長 1 名	H30. 3. 14	九州ビル 大ホール

## 相談支援事業所 夢の紀

### 〈概況〉

法人内施設利用におけるサービス利用計画書の作成をはじめ、久留米市、朝倉市、うきは市等の障害福祉課、市内の他相談支援事業所並びにサービス事業所と連携し、相談対応を行いながら事業展開を行った。また、ゆうかり医療療育センターの短期入所に関する問い合わせや利用予約の調整を行った。

### 【計画相談】

基本相談	地域事業部相談支援に記載
サービス等利用計画担当件数	295 件

- ・施設入所：169 件の計画相談の継続を行っている。今年度 31 名新規作成、147 名の計画更新を行った。また、医療機関から退院され、施設入所される方の支援を行った。
- ・在宅：前年度からの継続 93 件（うち児童 40 件）、新規の計画相談は 35 件（うち児童 25 件）であった。
- ・在宅利用者様で医療的ケアを必要とする重症心身障害児者の方については、日中一時や短期入所、訪問看護や居宅支援等におけるサービスの調整が困難なケースが多いため頻回な自宅訪問を必要としている。
- ・サービス利用につながらず、基本相談のみで経過している事例も抱えている現状である。

### 〈基幹相談支援センターとの連携〉

東部基幹相談支援センターから依頼を受け、福祉サービスの必要な対象者に、相談対応を行った（10 件）。また、すでに計画相談に入っている困難事例の計画相談において東部基幹相談支援センターと連携して支援を行った。

### 〈小児慢性特定疾病児童等自立支援事業〉

- ・久留米市保健所より小児慢性特定疾病自立支援事業をゆうかり医療療育センターにて受託し、相談支援専門員が自立支援員として看護部長とともに、保健所における相談、ピアカウンセリングの開催を行った。また、個別相談は 4 件あり、それぞれ関係機関との調整を行った。詳細は、小児慢性特定疾病児童等自立支援事業報告書を参照。



- ・小児慢性特定疾病自立支援事業
  - 相談支援（10月17日～20日、11月14日～17日）
  - ピアカウンセリング（12月15日、3月28日）
  - 小児慢性特定疾病児童等自立支援員定例会（5月25日、7月13日、9月21日、11月10日、1月31日）
  - 小児慢性特定疾病児童等自立支援員研修会（6月8日、9日）
  - 福岡県難病相談支援センター主催研修会（7月31日、8月4日、8月25日）

#### <他機関との連携>

- ・法人内：家族面談や認定調査に同席し、情報収集やモニタリングを行った。また、短期入所の受け入れ方法について、レスパイトの必要な家族やネグレクト疑いの利用者に対して、事業所と連携して支援を行った。
- ・今年度は朝倉市豪雨災害があったため、被災地に住んでいる方3名を短期入所で受け入れた。
- ・田主丸特別支援学校を中心に、久留米、小郡特別支援学校、各地域の小学校との連携を行うことで、利用児童の状況把握を行い、支援を行った
- ・各市町村障害福祉課やサービス事業所、地域における各協議会等、各種会議に参加し、情報交換を行うことで、地域で暮らす障害児者の生活の向上に努めた。今後も自己研鑽していく必要がある。

#### <出張及び参加会議>

- ・久留米市相談支援事業所連絡会<くるめ相談ネット>…12回（月1回 第3木曜日）
- ・久留米市地域生活支援協議会(施策推進部会、重心部会)…11回
- ・久留米介護福祉サービス事業者連絡協議会研修～医療を必要とする思い障害のある人たちとともにいきる2017～（9月22日、11月11日、1月20日、2月24日）
- ・田主丸特別支援学校相談会：年3回（7月13日、12月6日、3月1日）
- ・福岡県社会福祉士会 虐待対応チーム研修（11月4日、12月20日 福岡県社会福祉士会博多事務所）
- ・福岡県障害者虐待防止・権利擁護研修管理者コースファシリテーター（10月4日 クローバープラザ）
- ・福岡県障害者虐待防止・権利擁護研修従事者コースファシリテーター（12月5日、12月12日 クローバープラザ）
- ・久留米市基幹相談支援センター研修会（9月6日）

- ・ 八女筑後・久留米圏域相談支援従事者研修会（11月17日 大川市）
- ・ 九州地区障がい者相談支援事業合同研修（12月7日～8日 鹿児島）
- ・ 小児等在宅医療推進事業 小児在宅医療シンポジウム（1月14日 九大病院、12月9日 聖マリア病院）
- ・ 久留米市相談支援事業所実地指導（2月20日）
- ・ 久留米市虐待防止研修（2月10日）
- ・ 重症心身障害児者相談支援コーディネーター養成研修（12月23～24日、1月20～21日 北九州）
- ・ 久留米市相談支援専門員勉強会「重心」（11月7日）
- ・ 田主丸特別支援学校との連絡調整会議…4回
- ・ 相談支援ネットワーク会議（療養介護事業所相談支援連絡会）：2回
- ・ 筑後地区療育システム協議会：8回
- ・ 県相談支援従事者専門コース別研修「意思決定支援」（3月19日）
- ・ 福祉相談関係職員講習会（9月13～15日 東京）
- ・ 屏水校区保護者会～放課後支援、相談支援について（6月2日）
- ・ うきは市地域障害者協議会：5回

## 耳 納 学 園

### 《概況》

昨年の7月5日から6日にかけて福岡県と大分県を中心とする九州北部で発生した集中豪雨では線状降水帯が形成維持され、筑後川をはさんだ隣の朝倉市や東峰村などでは記録的な大雨となり、テレビニュースなどで悲惨な状況である事を知った。すぐに、朝倉市と東峰村出身の利用者様のお宅へ電話で安否確認をとりご家族の安全を確認した。しかし、東峰村出身の利用者様の所だけ電話回線が通じなかったが、身内の方より、家も大丈夫で避難所にいるとの連絡を受けた。あらためて、自然災害の恐ろしさを身近に感じる出来事であった。

作業面においては、毎年恒例の「ゆめタウンくるめ展示即売会」が1月8日（月）から1月10日（水）までの3日間で開催した。今までは連休期間での販売であったが、今回1日が休日で2日が平日という販売となり、今まで経験したことがない販売会のため、大幅な減収になるのではないかと心配したが、法人職員のご協力を得て予想を超える売り上げであった。

生活面では、利用者様の金銭や買い物等に関しては必ず担当職員と金銭を確認する職員がお互いにチェックをし、利用者様立ち合いにて実施している。利用者様にとっては確認作業や拇印を押してもらうなど時間がかかり不便をおかけしているが、苦情も出ず協力してもらっている。

健康面では、冬場の展示会期間中に感染症の発生もなく看護師・栄養士による感染症予防の声掛け等のおかげである。又、利用者様の意識も高かった事によるものと思われる。引き続き感染症予防を利用者様と職員とで、取り組んでいきたい。

### 総務部

#### 1) 本年度の各事業別利用状況

《施設入所支援》定員 34 名

年間延べ利用者数 10,476 名、充足率 84.4%、1 日平均利用者数 28.7 名

《就労継続支援 B 型》定員 40 名（通所 6 名含む）

年間作業参加実績延べ利用者数 6,599 名、定員から見た充足率 68%、1 日平均作業参加実績利用者数 27.2 名

2) 本年度の地域別入退園状況は、別表（1）の通りである。

別表（1） 本年度の地域別入退園状況

地域別 入園状況	前年度末		入 園		退 園		本年度末	
	男	女	男	女	男	女	男	女
福岡市		1						1
久留米市	5	3			1		4	3
柳川市		4						4
朝倉市	2	1					2	1
大川市	1	1					1	1
小郡市		1						1
うきは市	1	1					1	1
大宰府市		1				1		
新宮町		1						1
八女市	1	1					1	1
みやま市		1						1
上毛町	1				1			
東峰村	1						1	
唐津市	1						1	
武雄市	1						1	
佐賀白石町		1						1
計	14	17			2	1	12	16

## 厚生労働部

### 【就労支援課】

陶芸部門では、まず利用者様の状況として、身体状態の後退が進行し、退園や、入院中と言う状況が出てきた。作業年数も長く、製作技術に長けている利用者様の離脱は、生産面において痛手となり、技術の継承についても課題になっている。在庫状況としては、今までの在庫が底をつきつつあり、これからの生産がそのまま製品となり商品の種類も減少する事が伺える。対策として新製品の開発、更に外注生地を取り入れも実施しなければならないと考えている。

工芸部門では、製品の愛着、生産への意欲が増しつつあり作業場内での意見交換

などに繋がっている。しかし、工芸部門の作業道具（特に針など）や材料は小さい事もあり、年齢を重ねていく利用者様にとって管理対策を講じている。また、法人内他施設よりの衣類縫製も受注が続き、作業の確保にも繋がっている。

食品加工部門では、引き続き「焼肉のタレ」の生産を行った。今年度は、福岡県主催の「美味しいものグランプリ」に参加し、更なる商品アピールに繋がった。また、材料確保に関しても順調に進み、昨年より多く生産する事が出来た。

販売に関しては、出向、委託、受託（パン・クッキー類）、各種イベントなどにて実施をした。しかしながら、天候不良による販売中止もあったが、前述の「美味しいものグランプリ」や久し振りに「耳納の市」にも参加した。来年度は、うきは市地域障害者協議会就労部門での合同販売会に参加を予定している。「ゆめタウン久留米展示即売会」では、昨年度と同様、三日間開催した。今回は、内二日間は平日であり、昨年通りの実績には届かなかった。福岡三越での「まごころ大規模販売会」にも参加した。

通所部門は、陶芸部門で1名、週2回利用している。利用を開始して一年が過ぎ、学園にも徐々に慣れ始め、少しずつではあるが、コミュニケーションも作業技術も向上してきている。

利用者様の状態は確実に低下しており、作業面はもとより生活面でも苦慮する場面が増加してきている。安全面と生産性向性とのバランスに配慮しつつ、各利用者様のモチベーションをキープ出来る様に支援していく。

1) 本年度の売上及び工賃支給状況は、別表(2)の通りである。

月	売上金額	工賃支給額
4月	176,764	313,506
5月	346,802	327,389
6月	219,850	327,845
7月	393,322	327,332
8月	1,860,115	326,576
9月	899,167	327,100
10月	412,617	326,791
11月	327,532	326,794
12月	276,969	326,882
1月	1,507,960	327,813
2月	310,683	463,917
3月	406,668	326,639
計	7,138,449	4,048,584

※ 本年度の工賃支給率は、56.7%

## 【厚生課】

昨年度末に地域で生活をするために耳納学園を退園された、元利用者様は、アパート生活をしながら就労継続支援A型事業所で仕事をされ、生活においてはヘルパーによる食事づくりや入浴支援を受けながら、徐々に一人暮らしに慣れていかれた。社会人としての自覚も出て顔つきも変わり自身にあふれた笑顔がすてきであった。

生活面においては、利用者様の金銭の入金・出金をする場合必ず担当職員と確認をする職員がお互いにチェックをおこなっている。利用者様の買い物においても職員二人で、注文品とレシート、つり銭を確認し利用者様も立ち合ってもらっている。

又、当日の買い物表を作成し利用者様の拇印と担当職員印と確認職員印を押して施設長へ提出している。利用者様にとっては、少し時間がかかって品物をもらうようになったが、苦情もなく協力をしてもらっている。

行事関係では、利用者様と6ヶ月ごとに面談し個別支援への取り組等について話し合いを持っている。その中でも、休日に近隣のスーパーへ買い物に出かけているが、最近、自分で外出する事が少なくなってきた。普段行く機会がない所へ職員が付き添って行う体験外出をしたいとの依頼が多く出たので、気候の良い春と秋に福岡市天神でのショッピング・九州国立博物館・福岡市水族館・ハローワーク久留米見学・福岡空港にて飛行機撮影・ニトリ・ベスト電器久留米店等へ出かけて楽しい時間を過ごされていた。

利用者様よりの苦情に対してはすぐに職員が面談するなどの対応を行ったり、自治会長や役員をまじえて問題の解決を話し合ったりしている。昨年より苦情解決担当者が対応する相談が減ってきている。

次年度も、利用者様が快適な生活をすごしていただくように取り組んでいきたい。

1) 本年度の在園期間別人員数及び平均在園期間は、別表(3)の通りである。

別表(3) 入園期間別人員数及び平均入所期間

区分	1年未満	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年以上	計	平均
男	0	0	2	1	2	7	12	25年3ヵ月
女	0	1	2	1	2	10	16	25年1ヵ月
計	0	1	4	2	4	17	28	25年2ヵ月

2) 本年度の年齢区分別人員数及び平均年齢は、別表(4)の通りである。

別表（4）年齢区分別人員数及び平均年齢

区分	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳以上	計	平均
男	0	0	2	3	7	12	53歳4ヵ月
女	0	0	1	5	10	16	55歳5ヵ月
計	0	0	3	8	17	28	54歳4ヵ月

3) 本年度の主な実施事項は、別表（5）の通りである。

別表（5）主な実施事項

月	日	行 事	月	日	行 事
4	31	開園記念行事	9	19	夕食会
4	28	体験外出（図書館）	10	15	ゆうかり運動会（雨天中止）
5	3	第55回身障者体育大会	11	8	体験外出（九州国立博物館）
6	8	体験外出（水族館）	11	21	夕食会
6	15	体験外出（天神買い物）	12	22	もちつき・忘年会
6	22	夕食会	1	16	喫茶店
7	20	盆踊り花火大会（中止）	2	15	ラーメンを食べよう
8	2	体験外出（ハローワーク）	3	22	夕食会
8	11	レクリエーション			

4) 本年度実習生の受け入れ

介護等体験実習	（久留米工業大学）	1名
介護等体験実習	（福岡教育大学）	1名
介護等体験実習	（福岡大学）	1名
介護等体験実習	（久留米工業大学）	1名
介護等体験実習	（久留米大学）	1名
介護等体験実習	（九州大学）	1名
産業現場等実習	（日田支援学校）	1名
現場実習	（久留米特別支援学校）	1名
保育実習Ⅰ	（九州大谷短期大学）	2名

【看護課】

今年度は、前年度から入院中だった利用者様が6月に死亡退園された。

脱水症状の加療中に大腸癌が判明し治療中の利用者様、蜂窩織炎を繰り返す利用者様、自室で転倒し骨折した利用者様、口腔内挫創や外傷による処置が続く利用者様等々。また、疼痛や血尿が長引いていた尿路結石の利用者様は、約2ヵ月の内服治療で流出が確認できた。

感染症の罹患は無く、年2回の健康診断と年1回の口腔健診は、全利用者様対象に実施できた。

介助を多く必要とする利用者様も在園しており、残存機能を考慮し状態に応じた看護の提供に努めたい。

1) 月別受診人員数は別表(6)の通りである。

別表(6) 月別受診人員

月別 疾病別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定期薬内服	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
臨時薬内服	22	22	22	23	23	23	21	21	21	21	21	20	260
循環器科	2	0	2	2	3	0	2	2	2	0	2	2	19
内分泌科	2	0	3	0	2	1	2	0	2	1	1	2	16
脳神経科	2	1	2	1	2	1	2	1	1	2	1	2	18
消化器科	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	4
泌尿器科	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	3
外科	4	5	2	4	2	3	3	5	2	3	3	2	38
耳鼻科	1	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	0	6
歯科	9	5	41	21	14	9	14	17	13	22	22	18	205
皮膚科	9	14	9	14	12	10	13	11	13	10	9	10	134
眼科	10	6	8	7	8	6	7	7	6	6	5	12	88
婦人科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
精神科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
入院	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	14
計	66	57	94	78	71	58	71	68	64	71	69	74	841



【29年度研修等出張記録】

期日(期間)	研修会名称	出張先	参加数
H29 4/20	第56回福岡県身体障害者体育大会 説明会	春日市	1
4/26	うきは市 第1回就労部会	うきは市	2
5/16	うきは市地域障害者協議会 就労支援部会	うきは市	1
5/19	県知的障害者福祉協会第1回施設長研修会	福岡市	1
5/31	久留米市障害者基幹相談センター研修会	久留米市	2
6/2	平成29年度県社会就労センター協・ 県セルフセンター第1回施設長研修会	春日市	1
6/12・13	県身障協度第1回施設長・職員研修会	飯塚市	1
6/13、6/27	県身障協 29年度社福施設職員研修 基礎研修	春日市	1
6/19	「まごころ製品」美味しいものグランプリ 2017 説明会	福岡市	2
6/29	平成29年度第1回社会福祉法人 経営セミナー	福岡市	1
7/31	「まごころ製品」販売会説明会	福岡市	2
7/31	我が事・丸ごと地域貢献セミナー	福岡市	1
8/8	兵施 29年度第2回社会福祉法人 経営セミナー	福岡市	1
8/9	うきは市地域障害者協議会 就労支援部会	うきは市	1
8/22	県社会就労センター協議会 職員研修会	福岡市	2
8/24	労務管理研修	春日市	1
8/25	会計担当者研修	春日市	1
9/13	福祉サービス苦情解決従事者研修会	春日市	1
9/21	まごころ製品大規模販売会参加施設打合せ	福岡市	2
10/11～13	九州身体障害者施設研究大会	沖縄県	1
10/31、11/1・2	平成29年度九州授産施設(セルフ) 研究大会	沖縄県	1
10/25	福岡県社会福祉大会	春日市	1
10/10	接遇対応セミナー	久留米市	1
11/16	指導者研修	久留米市	1
11/22	県セルフセンター施設長職員研修会	福岡市	1
12/1	応研 年末調整セミナー	福岡市	1
12/11	まごころ製品大規模販売事前説明会	福岡市	1
H30 1/17	会計財務セミナー	福岡市	1
1/24・25	平成29年度サービス管理責任者研修	春日市	1
2/8	これからの医療と福祉のコラボレーション	久留米市	1
2/10	障害者福祉施設等従事者向け虐待防止研修	久留米市	1
2/20	県身障協第2回施設長職員研修会	春日市	1
2/26	県社協記録技術研修(障がい分野)	春日市	1
3/13	セルフセンター福岡総会 就労センター施設長職員研修会	春日市	1
3/13	業務目標の設定・管理・達成 研修	春日市	1
3/14	県経営協 経営者セミナー	福岡市	1
3/22	福岡県身障協 施設長会	春日市	1

## 千歳療護園

### 〈概況〉

昨年の熊本地震に次いで、本年7月5日九州北部豪雨が朝倉市を中心に大きな爪痕を残した。数十名の尊い命を奪い、現在もまだ数名の行方不明者がいる状況である。筑後川を挟み朝倉市と隣り合わせの地域に所在する千歳療護園もこのような自然災害に遭遇する可能性がある。現に2年前の大型台風が接近し女子利用者様の居室が浸水しており、災害への対応について、安全対策委員を中心に対策を検討している所である。

九州北部豪雨では、支援センターご利用のK.A様のご家族と共に被災され、着の身着のまま園へ避難されてきた様子に、災害の大きさを改めて思い知らされた。

ご家族の負担軽減とK.A様の安全のため、7月6日から10月5日までの3ヶ月間K.A様を緊急避難者として千歳療護園で受け入れている。

千歳療護園では、夜勤帯における利用者様の安全安心を図る観点から夜勤を行う職員を対象に、緊急事態の事例を挙げ、その対応を述べてもらうシミュレーションを朝礼時に行い周知徹底した。また、緊急時に冷静に対応できるよう各疾患の対応マニュアルの作成も行っている。

更に巡回の回数を以前より多くし利用者様に異変が無いかチェック表を作成、確認を行うことにした。

防犯については、4月に千歳療護園周辺の3ヶ所(玄関・東側駐車場・南側駐車場)に防犯カメラを設置、侵入者や異変に早急に対応できるよう千歳詰所のモニターで24時間体制の監視を行うと共に、千歳外門は夜間帯に於いてダイヤル式鍵で施錠し、安易に不審者を侵入させない体制を整える等、利用者様の安全に最善を尽くした。尚、解錠のダイヤル番号は、緊急時に開門できるよう各施設に報告している。

職員については、4月より外国人(ベトナム)の現場職員を採用。本人も初めての介護(支援、援助等)であったため、入職後3ヶ月間は終業時に反省会の時間を設け、言葉の問題、障害者に対する考え方や利用者様への関わり方、他職員との人間関係等の課題に加え、法人組織も分かり易いようにひとつずつ説明を行った。現在は本人も意欲を持ち、介護職員初任者研修の資格を2月に取得している。

今年度は、利用者様の安全を守り安心して暮らして頂けるよう生活環境を整えた1年であった。今の生活環境を基準とし、より一層快適に暮らして頂けるようハード面、ソフト面を充実させ、更なるサービスの向上を目指し支援を行っていききたい。

<千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

年間延べ利用者数 14,574 名 充足率 99.8%

【生活介護：定員 50 名】（通所 10 名含む）

年間延べ利用者数 11,338 名 充足率 91.0%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 173 名

\*九州北部豪雨による緊急避難者 1 名（利用期間：7 月 6 日～10 月 5 日）を受け入れた。

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者について】

8 名の利用者様が延べ 459 日間の入院、また外泊日数は延べ 141 日間となり、入院日数や外泊日数を除く実利用者数は 13,974 名で 95.7%の充足率であった。利用者様が入院されると退院までの期間が長期化する傾向にある。尚、平成 30 年 3 月 31 日現在の入院者数は 0 名である。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

(1) 生活援助課

(パートナー係)

本年度は、個別支援計画書の内容を再確認し、個々に合わせたニーズに従い支援を行ってきた。ニーズを達成するために利用者様を 7 グループに分け、担当職員を割り当て、月に 2 回程のグループ活動が行い、利用者様と密に支援できるよう時間を設けた。また、グループ活動を行う上で情報を共有出来るよう、記録を残すことを徹底させ、それぞれの担当職員がパソコンで入力し、どのパソコンからも閲覧で

きるような体制を構築した。活動の内容としては、近隣の公園へ散歩に出かけたり、日常会話や相談などの時間、足浴にてリラックス効果を促す活動など、グループによる様々な活動が行われている。利用者様の反応としては、もう少し活動時間を設けてほしい、活動回数を増やしてほしいとの意見が出てきている。担当職員の見解としては、活動できる部屋を設置してはどうか、利用者個人によって時間配分に差が出てくるなど、様々な課題が出てきている。活動時間や希望に添える環境づくりが今後の課題であり、改善できるような取り組みが必要となっている。

行事に関しては、ドライブ外出、買い物外出の計画や招待外出の手続き業務を行っている。買い物外出では、昼食を兼ねた外出、買い物のみの外出に分け、付き添い職員の選出や所持金の準備、買い物レシートの計算や残金確認などの業務を行っている。特に昼食外出を兼ねる場合は食事形態の確認、体調の確認及び服用薬の準備などの配慮を行い、計画を立てている。また、買い物外出をする前に洋服が不足していないか、必要な日用品がないかを担当職員に連絡、購入できるように、前もって調べることを心掛けている。長時間の外出が難しい利用者様の外出には、マイクロバスを使用し、近隣ドライブにて、車窓から季節を感じてもらい、気分転換を図れることを目的とし、花見や紅葉時期に計画を立てている。また、マイクロバスでの外出のため、各部署へ応援要請、車両確保のための依頼書作成、運転手の確保といった連絡調整を行っている。

その他、昨年に続き、インターネットを利用した買物の仲介と支払い、受給者証、確定申告など行政への手続き代行業務、保護者への連絡書や小遣い帳複写書類の作成、死亡退園利用者様のご家族への遺留品、通帳残金受け渡しなどの事務的な業務も行っている。

来年度の課題としては、「外出がしたい」との要望が多く、短時間でも近隣の商業施設に出向き、好きなものを見て購入できるような機会を増やすこと、園外での活動を充実させることを目標に計画的に取り組んでいきたいと考えている。

☆ 週生活表は別表(2)、年間実施行事は別表(3)の通りである。

(サポート係)

平成29年度の千歳療護園は生活介護50名(現在の入所実人数38名・通所10名)短期入所2名で構成されており、死亡退園(3名)医療機関の転院(1名)入園(1名)と言う実態であった。

自然災害として7月5日、九州北部豪雨が発生し直接の被害は無かったものの、近隣の朝倉市では多くの方が住む家を失い、千歳療護園は緊急避難者の受け入れとして1名の方を約3カ月間受け入れた。毎年恒例の地域の方と楽しむ、盆踊り・花

火大会は、近隣の惨事に際し中止となる。

利用者様の健康面に於いては、胃ろう造設を経て長期入院されていた方が誤嚥性肺炎を発症し、医療的なケアが常時必要となり病院への転院となる。又、腸捻転で入院された利用者様に癌が見つかり人工肛門造設になる等、重度の利用者様が増えて来られている。

夜間巡回の強化(息遣いの確認・確認表)や様子観察のできる環境の設置・緊急事態に適応出来るよう職員の意識向上に努めた。特に、各疾患(心肺停止・転倒・骨折・チアノーゼ・嘔吐・熱発)別にマニュアルを作成し、8月から毎朝礼時に、職員全員に緊急時の対応方法を説明してもらい周知徹底した。

H28年7月相模原障害者施設の事件以来、「不審者・防犯対策」の強化(ビデオカメラ設置)に対応した。また、利用者様の体調の変化・看護課との連携・ご家族への報告等の強化に努め、感謝の言葉を頂いている。

利用者様の生活面に於いては、園での行事(開園記念日・運動会・餅つき・忘年会等)の他に、誕生日外出・春と秋のドライブ・希望にて野球観戦やサーカス等、一人ひとりに合った喜ばれる支援を考慮して行い、個別支援活動で計画した園内散歩・カラオケ・工作・足湯なども日替わりで実行している。また、グループ毎に気兼ねなく楽しんで頂けるよう、音楽・アロマなど新しい楽しみが体験できるように一部屋を設置した。

アクシデント報告では、事故(自分で転んで筋を傷める等)が前年度に比べ3件と少なかった。職員の虐待に関するアンケートでは“ちゃん付け”“お客様としての言葉使い”“同性介助”についての意識が甘く改善に心がける必要がある。

ゆうかり学園創立60周年を終え、もう1度原点に戻り来期は『福祉の原点は心、その心の輪をひろげよう』の気持ちをもち、責任を持って業務に徹するように心がけていきます。

## (2) 訓練援助課

千歳療護園では、男性20名、女性18名、計38名の利用者様に対し、理学療法士1名、機能訓練員1名(兼任)で、利用者様一人あたり1回40分の個別訓練を、週1~2回実施した。

訓練の内容としては、利用者様の高齢化に伴い、残存機能の維持、体力・筋力の維持、関節可動域の維持を目的に、個別の能力に合わせた動作運動、筋力維持運動や関節可動域維持運動を行った。筋緊張の強い利用者様には、バードチェアを使用

してのリラクゼーションや、ストレッチ等を行い、筋緊張の緩和をはかった。身体の痛みを訴える利用者様には、ホットパックやマッサージを行い、痛みの軽減が出来るように支援を行った。また、上肢の巧緻動作維持や座位保持の維持を目的に、パズルやスキルスクリーン等の作製を取り入れた。

個別にかかわることで、利用者様の話に傾聴し、気分転換に外に散歩に出かける等、ストレスの解消や情緒の安定をはかり、精神面から起きる機能低下防止にも心掛けた。

補装具全般の交付・修理申請手続きを行い、車椅子・電動車椅子・座位保持装置・下肢装具等の作製・修理にも携わっている。平成 29 年度では、車椅子の交付申請 4 件、修理申請 7 件、補装具の交付申請 1 件、修理申請 1 件、福祉用品の購入 3 件の手続きを行った。

今年度より、医師にリハビリテーション指示箋を作成していただき、リハビリテーション加算の請求も行っている。リハビリテーションカンファレンス、リハビリテーション実施計画書を作成し、3 か月ごとに見直しを行い、利用者様やご家族への説明・同意をいただいている。

#### (訓練内容)

- 関節可動域運動
- 基本動作運動(寝返り・起き上がり・立ち上がり・立位保持・歩行等)
- 姿勢保持運動(座位バランス・立位等)
- 日常生活動作運動(車椅子駆動・移乗動作等)
- 体力・筋力維持運動(腹筋・スクワット等)
- 巧緻動作運動(パズル・ひも通し・スキルスクリーン等)
- リラクゼーション(マッサージ・ホットパック等)

### (3) 生活部相談援助課

#### 《概況》

平成 29 年度は、ゆうかり学園 60 周年、創設者生誕 100 年の記念行事を行った。また、7 月に発生した九州北部豪雨では、福岡県(朝倉市)と大分県(日田市)地域に甚大な被害をもたらした。当園でも被災に遭われた方の緊急避難の受け入れ施設として、1 名の方を 3 ヶ月間支援した。

相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務(食事、入浴、

排泄、移動等)で関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

さらに、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を継続し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。

また、散歩をするには絶好の環境であるため、気分転換・ストレス解消・地域の多くの方との触れ合い等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

利用者様も個室生活に慣れてきたと思われるが、孤独感を感じさせないように各居室に出向いた折に、以前以上にコミュニケーションを密にとるような配慮も継続した。

今後の課題としては、利用者様の高齢化に伴う身体機能、精神活動の低下を、他の部署と連携を取りながら、快適な生活で過ごせるように支援したい。

(援助内容)

- ① 面談活動 (カタルシス)
- ② 散歩療法 (発散、リフレッシュ)
- ③ 表現療法 (遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係)
- ④ ポジショニング (リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOLの拡大等)
- ⑤ 前頭前野活性化法 (読み聞かせ、公文カード、ドリル等)
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス (ドライブ外出、カウンセリング)
- ⑧ 環境整備、その他

#### (4) 生活部看護課

障害者支援施設に於いて利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、園内で医療行為を必要とする利用者様が徐々に増加する傾向であり協力病院との連携が必要不可欠な状況です。

利用者様の健康管理・衛生管理を行いサービス向上に努めています。

《平成 29 年度》

① 委託入院  
 田主丸中央病院 13 件  
 朝倉健生病院 1 件

② 医療ケア  
 膀胱瘻 1 名  
 経管栄養（胃瘻） 1 名  
 皮下注射 1 名  
 ストーマ 2 名  
 吸入 2 名  
 バルーン管理 1 名

③ インフルエンザ予防接種 38 名

④千歳療護園 年齢別入所者数 平成 30 年 3 月 31 日現在

年齢	30 歳未満	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	計
利用者	1	1	5	22	4	5	38
(%)	2	2	12	57	10	12	95

⑤千歳療護園 病類別入所者数 平成 30 年 3 月 31 日現在

病 名	人数	病 名	人数
脳性麻痺	31	脳脊髄膜炎	1
頭部外傷後遺症	1	脳挫傷	1
精神遅滞（重度）	1	クモ膜下出血後遺症	1
進行性ミオクローヌステんかん	1		
脳梗塞後遺症	1		



別表 (1)

## 地域別入退園者状況表

平成 29 年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町	1			1		1	
	上 陽 町							
	大 木 町							
	大 和 町							
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苅 田 町							
	筑 前 町							
	福 智 町							
	小 計	1			1		1	
市 福 祉 関 係	福 岡 市	1			1		1	
	北 九 州 市	3		1	2	2		死亡退園
	大 牟 田 市	2			2	2		
	久 留 米 市	7	2	1	8	5	3	死亡退園
	直 方 市							
	飯 塚 市							
	田 川 市	2			2		2	
	柳 川 市	5			5	2	3	
	宗 像 市	1			1	1		
	八 女 市	2			2	1	1	
	筑 後 市							
	大 川 市	4			4	1	3	
	小 郡 市							
	筑 紫 野 市	1			1	1		
	春 日 市	1			1		1	
	大 野 城 市							
	糸 島 市	1			1	1		
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
	中 間 市							
古 賀 市								
う き は 市	4			4	1	3		
朝 倉 市	4		2	2	2		退園 (死亡・入院)	
み や ま 市	1			1	1			
福 津 市								
	小 計	39	2	4	37	20	17	
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計	0	0	0	0	0	0	
合 計		40	2	4	38	20	18	

別表 (2)

## 週 生 活 表

千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日
時間							
6:30	起床						
8:00	着替・洗面・移動 朝食						
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)						
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会 (月最終日曜日)
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	【生花】	
11:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き						
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	
14:00	訓練	訓練 定期診察	訓練 療育会議 外出	訓練 ちとせ会 職員懇談会	訓練		
15:00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練		
16:00			暖和会				
16:20	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施						
17:00	夕食						
18:00	歯磨き (自立者一部)、後片付け、排泄 着替え、自由時間						
19:00	歯磨き						
20:00	消灯						
21:00							
	○月曜日 コミュニケーション会 ○火曜日 定期診察(男女月1回)、DVD視聴、個別支援活動、ネイルボランティア(月1回) ○水曜日 療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義)暖和会(第2週)、DVD視聴活動、個別支援活動 利用者買物(月2回) ○木曜日 ちとせ会・職員懇談会(第2週)、カラオケ活動、レクリエーション活動(月1回) ○金曜日 DVD視聴活動、個別支援活動 ○土曜日 生け花(第3週)、工作活動 ○月行事 体重測定(第一日曜)、出張散髪(最終月曜日) 利用者と園長懇談会(最終日曜日) ○隔月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)						

## 別表 (3)

## 年間実施行事記録表

平成 29 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	6	開園記念日・花見ドライブ	9	5	出張散髪
	13	外出(久留米ゆめタウン)		16	生け花
	15	生け花		19	ネイルボランティア
	20	ネイルボランティア		25	出張散髪
	24	外出(久留米ゆめタウン)・出張散髪		28	招待外出(ナイター観戦)
	27	外出(久留米ゆめタウン)		10	3
5	3	障害者スポーツ大会(博多の森)	15		室内運動会
	11	希望外出(宰府園へ兄弟面会)	26		ネイルボランティア
	15	外出(久留米ゆめタウン)	27		生け花
	16	外出(久留米ゆめタウン)	30		出張散髪
	23	ネイルボランティア	11		9
	29	出張散髪		7	出張散髪
	30	外出(マックスバリュー)		22	紅葉ドライブ
31	外出(マックスバリュー)	25		生け花	
6	1	外出(吉井ゆめタウン)		27	出張散髪
	2	生け花		30	外出(マックスバリュー)ネイルボランティア
	4	ちとせ祭		12	4
	6	外出(マックスバリュー)	14		うきは消防署指導避難訓練・餅つき慰問
	8	外出(マックスバリュー)	16		生け花
	13	外出(マックスバリュー)	19		ネイルボランティア
	17	生け花	22		忘年会
	20	ネイルボランティア	1		9
	21	外出(マックスバリュー)		20	生け花
	22	招待外出(サーカス)		23	ネイルボランティア
26	出張散髪	29		出張散髪	
29	招待外出(ナイター観戦)	2		13	出張散髪
7	4		出張散髪	17	生け花
	13		ネイルボランティア	20	ネイルボランティア
	15		生け花	26	出張散髪
	31		出張散髪	3	6
8	1	出張散髪	15		九州プロレス慰問
	18	60周年記念式典	17		生け花
	22	ネイルボランティア	20		ネイルボランティア
	28	出張散髪	28		外出(久留米ゆめタウン)
	31	納涼祭	29		外出(マックスバリュー)

## (参) 実習生受け入れ状況

## 平岡介護福祉

実習期間	人数
11月21日～12月12日	2

## 介護等体験実習

大 学 名	実習期間	人数
福岡女子大学	5日間	1
久留米大学	5日間	1
福岡教育大学	5日間	2
福岡教育大学	5日間	2

延べ人数 66名

別表(4)

## 日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	2	4
	一部介助	11	9	20
	全介助	7	7	14
起 坐	自 立	5	3	8
	一部介助	6	4	10
	全介助	9	11	20
立ち上がり	自 立	1	1	2
	一部介助	6	5	11
	全介助	13	12	25
排 泄	自 立	3	0	3
	一部介助	2	6	8
	全介助	14	12	26
更 衣	自 立	2	1	3
	一部介助	3	3	6
	全介助	15	14	29
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	1	4
	全介助	17	17	34
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	0	1	1
	全介助	19	17	36
寝返り	自 立	6	8	14
	一部介助	2	4	6
	全介助	12	6	18
車椅子使用	自 立	3	3	6
	一部介助	6	5	11
	全介助	10	9	19

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	3	1	4
		2回	4	6	10
		3回	7	7	14
		4回	5	3	8
		小計	18	17	35
	服 薬	1回	11	5	16
		2回	6	11	17
		3回	0	0	0
		小計	17	16	33
	体位変換	1回	2	2	4
		2回	2	0	2
		4回	0	0	0
		8回	0	0	0
		小計	4	2	6
おむつ使用	昼・夜	5	3	8	
	夜間のみ	2	5	7	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りなども含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗身の一部が出来る事。

## 障害者支援センター ちとせ

「障害者支援センターちとせ」は、障害者支援施設千歳療護園の通所による日中活動（生活介護）として事業を実施した。現在、久留米市、うきは市、朝倉市を事業実施地域としてサービスを提供している。

平成30年3月31日現在の、支援センター利用契約者様は16名で、内訳は下記の通りである。

久留米市	7名
うきは市	8名
朝倉市	1名

※朝倉市からの利用者様が1名褥瘡による長期入院をされているが、支援センターとの契約はご家族様の意向もあり継続している。

今年度は、延べ 1,468名の方が利用され、1日平均5.6名の利用があった。内訳は下記の通りである。

久留米市	713名
うきは市	433名
朝倉市	51名

延べ利用人数は前年と比較すると125名の増となった。市町村別では減数となったのは久留米市の6名・朝倉市の146名で、うきは市は、278名の増であった。

利用者様の状況として、東部障害者基幹相談支援センター、障害者相談支援事業所夢の紀の情報提供また、管理課による送迎の協力もあり本年度初めは契約者様が15名であったが、年度途中に入所へ移行された方が3名、新規の契約者様は3名（久留米市2名 うきは市1名）になり増減はなかった。現在19歳から79歳(男性8名女性7名)の方が利用している。

※痰吸引・経管栄養は基本研修・実地研修（特定の者）を終了した介護職員が、「特定の方」（1名）に対し利用者様（及びご家族様）の意向や必要に応じて看護職員と連携し実施している。実施状況は以下のとおりである。

・たん吸引は1名の利用者様に対し、それぞれ1回から2回実施。

☆障害支援区分、主たる起因疾患別年齢表は、別表(A)の通りである。

☆月別・市別利用者数表は、別表(B)の通りである。

活動においては、制作・創作活動（掲示物制作や季節の飾り物、習字など）や誕生会、四季外出、個別的機能訓練、なぞなぞクイズやランプなどを実施した。

毎年恒例となっている年賀貼り絵の制作は今年も干支の戌を利用者様全員で綿棒と段ボールを使用しての絵画作りを行った。完成した作品は、1月の耳納学園の展示即売会会場に展示、その後は支援センターの玄関に展示し利用者様に喜んで頂いている。

本年は、雨の影響などで屋外への散歩があまりできなかった。外出はドライブ外出を中心に気分転換を図って頂いた。入浴の時間を皆さん楽しみにしておられるのでゆっくりと入浴を楽しんで頂いた。

外出行事（ドライブ外出や買い物、花見など）や法人の各行事（夏祭り）にも積極的に参加頂いた。

#### 日中活動の支援内容

○身体介護 食事、入浴、排泄、移動、移乗介助

○創作的活動、文化的活動、社会適応訓練（個別活動・グループ活動）

##### <手工芸>

- 折り紙細工 花 小物 輪飾り
- 小物づくり 編み物 キーホルダー
- 造形 紙、布、ボタン、テープや毛糸、木の実など様々な材料を利用
- ジグソーパズルなど

<習字、読み、書き> 毛筆、読み書き練習、模写 作詞 詩

<制作> 貼り絵 自由画、ぬり絵、折り紙制作など

<外出> 見学、買い物、ドライブなど

○機能訓練

日常生活動作訓練、四肢他動・抵抗運動、器具運動、積み木、紐通しなど

○スポーツ、趣味娯楽活動

ポケネット、輪投げ、ナンバーストライク、 玉入れ、カラオケ、トランプ、オセロ、ジェンガ、ビー玉・おはじき、 合唱・楽器演奏、DVD鑑賞など

○更生相談

利用者様の要望や必要に応じて医療、福祉、介護等の相談を行っている。

別表 (A) 平成 29 年度

障害程度区分表

障害者支援センター ちとせ

年齢 \ 区分	2	3	4	5	6	計
20 歳未満					2	2
20～29			1		1	2
30～39						0
40～49			1	1	2	4
50～59			1	2		3
60～64		1			1	2
65 歳以上		1	1		1	3
計		2	4	3	7	16

主たる病類年齢表

病名 \ 年齢	(a)	(b)	(c)	(d)	(e)	(f)	(g)	(h)	(i)	計
	脳性麻痺	脳血管障害	脊髄損傷	頭部外傷	特定疾病	特定疾患	リウマチ	進行性筋萎縮症	その他	
20 歳未満	2									2
20～39	1								1	2
40～64	2	1	1		1				4	9
65 歳以上	1	1							1	3
計	6	2	1		1				6	16

別表 (B) 平成 29 年度 月別・市別利用者数表

障害者支援センター ちとせ

月	利用 日数	利用 者数	1 日 平均
4	20	126	6.3
5	20	128	6.4
6	22	134	6
7	20	96	4.8
8	20	106	5.3
9	20	110	5.5
10	20	107	5.3
11	20	106	5.3
12	20	108	5.4
1	18	106	5.8
2	19	114	6
3	21	120	5.7
計	240	1,361	5.65

月	久留米市			うきは市			朝倉市		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
4	19	36	55	29	27	56	0	15	15
5	21	34	55	26	30	56	0	17	17
6	20	43	63	23	32	55	0	16	16
7	17	34	51	21	22	43	0	3	3
8	20	29	49	33	24	57	0	0	0
9	20	36	56	34	20	54	0	0	0
10	14	37	51	35	21	56	0	0	0
11	14	38	52	30	24	54	0	0	0
12	23	32	55	31	22	53	0	0	0
1	24	33	57	27	22	49	0	0	0
2	23	34	57	24	33	57	0	0	0
3	23	32	55	32	33	65	0	0	0
計	238	418	656	345	310	655	0	51	51



## 第二千歳療護園

### 〈概況〉

今までに経験したことのない異常気象が続く中、今年も昨年の熊本地震に続き、九州北部地方では、7月5日から6日までの総降水量が多い所で500ミリを超え、7月の月降水量平均値を超える大雨となったところがあった。この記録的な大雨により、福岡県、大分県の両県では、死者37名、行方不明者4名の人的被害の他、多くの家屋の全半壊や床上浸水など、甚大な被害が発生した。主に筑後川を挟んだ甘木・朝倉地区での被害だったが、第二千歳療護園では、浸水等利用者様へ影響するような被害は幸いにしてなかった。しかし、例年地域との交流としている盆踊り・花火大会は自粛した。

さて、厚生労働省から「平成30年度障害福祉サービス等報酬改定の基本的な方向性について」が出され、主な改定項目に、(1)重度障害者や高齢の障害者等の地域移行・地域生活を支援するためのサービスの評価には「生活介護における常勤看護職員等配置加算の拡充」「短期入所における福祉型強化短期入所サービス費の創設」などがあり(2)自立生活援助の報酬・基準の設定には「障害支援区分全般をサービス対象者」「支援提供職員とサービス管理責任者を配置する。なお、他の障害福祉サービス事業所等との兼務を可能とする」などがあり(3)地域生活支援拠点等の整備促進、地域移行・地域生活を支援するための生活の場の確保等では「共生型サービスの基準・報酬の設定」等がある。

そんな中、社会福祉法人ゆうかり学園は創立60周年及び日野紀典生誕100年記念の節目の年となり、記念式典を開催し新たな志を決意した。

一方、安心・安全な生活を提供するためにも、防犯カメラの設置や防犯フィルムを施行し、防災・防犯対策を消防・警察署と連携することで強化し、マニュアルの周知徹底を行い警察官による防犯訓練も行った。

また、特に注目されている虐待・権利擁護についても、外部研修に参加したり当施設の権利擁護委員によるアンケート調査や伝達講習を実施し周知徹底した。

利用者様の高齢化に伴いご家族の高齢化は必然であり、成年後見人制度を適用された方が良いのではないかとと思われる利用者様が出てきている。

利用者様へ、より充実した生活を提供するためにも、昨年に引き続き今年も1、利用者の長期入院ゼロ 2、職員の離職者ゼロ 3、経営への無関心ゼロ、に取り組んだ。

<第二千歳療護園 総務課>

1. 本年度の各事業別利用状況

【施設入所支援：定員 40 名】

年間延べ利用者数 14,423 名 充足率 98.7%

【生活介護：定員 40 名】

年間延べ利用者数 10,271 名 充足率 98.7%

【短期入所：定員 2 名】

年間延べ利用者数 38 名

【日中一時支援】

利用なし

【入院・外泊者について】

8名の利用者様が延べ115日間の入院、また外泊日数は延べ66日間となっている。入院日数は昨年と比較すると156日の減となった。

入院日数や外泊日数を除く実利用者数は14242名で97.5%の充足率であった。

尚、平成29年7月19日、利用者様2名が死亡退所となっている。

平成30年3月31日現在の入院者数は0名である。

2. 本年度の地域別入退園状況は別表（1）の通りである。

別表（1）本年度の地域別入退園状況

生活部

(1) 生活援助課

(パートナー係)

個別支援計画のニーズを中心に利用者様の立場に立った利用者様本位のサービス提供を基本において、月1回の自治会役員の方との話し合い（暖和会）や園長との懇談会、職員との懇談会、利用者様の話し合いの場（ちとせ会）を通して、利用者様の自主性・選択性・対等性を尊重しながらサービス提供を行ってきた。

利用者様のニーズとして最も多い外出行事に関しては、ゆめタウン久留米や吉井ゆめマートへ買物を中心とした外出を毎月計画してきた。利用者様からの希望にて

外出先で昼食を食べ、食後にゆっくりと買い物を楽しんでいただく外出も計画し、利用者様も大変喜ばれていた。希望外出では利用者様の趣味として行っている短歌会や生け花の花展や身体障害者スポーツ大会に参加、遠方にお住いのご家族と原鶴温泉にて一日をゆっくりと過ごしていただく等、利用者様、ご家族の希望に沿った外出をしていただいた。誕生者外出や希望外出以外にも日中活動委員会を中心に午後からの1時間程度でドライブ外出などを実施してきた。また有償の外出サービスを利用される方も増えてきており、利用者様から利用の希望が出た時には事業者との連絡調整を行ってきた。

日中活動として午後よりビデオ視聴やカラオケ、月1回のレクリエーション、書初めや壁面飾りなどの制作活動等を実施してきた。また日中活動と並行してケース担当者が担当利用者様とマンツーマンで居室整理や運動公園への散歩、テレビゲームや塗り絵、オセロなどを個別活動として行い、日中活動の充実を図ってきた。

月1回の生け花では季節の美しい花を生け、千歳、第二千歳に飾っている。ネイルアートでは1回に4名程度と少人数ではあるが、爪を鮮やかな色彩で飾っていただいた利用者様は皆とても嬉しそうな笑顔をみせている。理容師と美容師の方に毎月来園して頂き、出張散髪として理容師の方には主に男性利用者様を、美容師の方には女性利用者様の散髪をして頂いている。

大変残念なことに昨年の7月に2名の利用者様が死亡退園されました。この2名の利用者様は成年後見人制度を利用されており、生前には後見人の定期的な面会があり、お亡くなりになられた後の葬儀や遺留金品の処分等、退園に際しての諸手続きを後見人の方に行って頂く事が出来た。第二千歳の利用者様も年々高齢化が進んでおり、それに伴いご家族の高齢化も進み、面会や行事への参加等も減ってきている現状の中で、親亡き後の利用者様の財産管理や身上監護を考えると、ご家族に対して成年後見人制度についての説明会等を実施しなければならないと考えている。

☆ 週生活表は別表（2）、年間実施行事は別表（3）の通りである。

（サポート係）

施設入所支援 40 名、生活介護 40 名、短期入所 2 名。現在、男性 23 名、女性 17 名（死亡退園 2 名：入園 2 名）（最少年齢 31 歳、最高年齢 85 歳、平均年齢 56 歳）の方の日常の生活介護・精神的支援、個別のニーズに沿った支援を行った。

今年度も、サービス管理責任者を中心に、利用者様の自立支援を目標に、ケアプランの作成・実施・検討を行いながら日々の支援を行った。

今年度、第二千歳療護園は開設 4 年目を迎え、利用者様の平均年齢も 56 歳を超

え、加齢に伴い身体の機能低下も著しく見られ、介護を必要とする場面が今まで以上に多くなって来ている。健康維持(誤嚥性肺炎予防)を目的とした口腔ケア(手作りの洗浄キッドを使用した洗浄・マッサージ)の実施を昨年度より継続して行っていることから、誤嚥性肺炎での入院はゼロであった。しかし、夜間に心肺停止で亡くなれるという不測の事態が起こっている。亡くなられた利用者様が、今まで特に問題もなく生活されていた利用者様だったことから夜間での巡回を強化した。利用者様の安眠と安全のため、巡回方法をマニュアル化し巡回確認票も併せて作成した。

また、全職員が利用者様への統一した支援を行う事を目的とした「第二千歳療護園サービス提供マニュアル」についても、基本となる入浴・食事・排泄・衛生管理のマニュアルについて、再検討・見直し・改訂を行った。今後も、継続してマニュアルの改訂に取り組んで行きたい。

昨年度より更に取り組みが重視されている権利擁護・障害者虐待防止法・障害者差別解消法についても、入浴場面では同性介助が出来ているが、排泄場面では職員配置など困難な時間帯もあるため、インカムの使用も昨年度から継続し、完全な同性介助の実現に向け努力している所である。

個別支援への取り組みについては、日中活動委員会を中心に、漠然と日々を過ごすことの無い様、『利用者様の充実した日中活動を支援する』をテーマに継続的に計画・支援を行っており、今では利用者様も予定表を確認しながら楽しみの一つとなっている。活動の内容は①個別活動については、個々のニーズに対応できるよう、担当支援員とのマンツーマンの時間を設定し、気分転換の散歩、居室整理、パソコン教室等、個々のニーズに応えた。②レクリエーション③ドライブ外出も1時間程度のものだが、「気分転換が出来た」「リフレッシュ出来る」「また行きたい」と好評を得た。その他に関しては、④文化的制作活動、⑤ビデオ視聴、⑥カラオケ、⑦自治会活動(話し合い)、⑧誕生者外出、⑨希望外出(買物・食事・催物見学)等行なった。また、⑩生け花・ネイルボランティアなど地域との交流も深めながら、利用者様の個別支援の充実を図り、自己実現を支援するよう努めた。

今後も多様化してくる利用者様のニーズに応えるべく、全職員で支援に取り組んで行きたい。

## (2) 訓練援助課

第二千歳療護園においては、利用者様 40 名(男性 23 名・女性 17 名)に対し、作

業療法士1名・機能訓練員1名で訓練を実施した。

一人あたり一回の訓練時間を40分とし、身体状況によって週1~2回実施。個別に関わり、状況に応じて居室でも行い、充実した訓練内容となるよう援助を行った。

訓練内容については、利用者様の状態に伴い、主に体力・筋力・バランス能力・関節可動域の維持回復、そして拘縮の予防、痛みの軽減等を目的とし、残存機能の維持や日常生活に対する意欲向上のため実施している。また利用者様の希望に沿い、塗り絵等の制作活動やバッティング、キャッチボールといった体を使った活動、オセロやトランプ、パソコン（インターネット検索）等の趣味活動、散歩（屋内外）といったことも行っていくことで、機能面のみでなく、精神面へのアプローチにも繋げ、気分転換や訓練時間をより楽しいものと感じてもらえるよう関わっている。そして利用者様の日常生活にとって少しでも刺激となり、環境の変化や意識（意欲）等の変化にも繋がるように心掛けている。訓練実施内容については下記の通りである。

そして4月よりリハビリテーション加算申請のため、利用者様40名のリハビリテーションカンファレンス、リハビリテーション実施計画書を作成している。3ヶ月に1度見直しを行い、本人・家族に同意を得ている。

また補装具関係では、例年に引き続き車椅子の管理をはじめ、補装具の交付手続き3件（作製中1件含む）、自費にて作製中1件、修理申請手続き8件（修理中1件含む）、福祉用具購入4件等についても実施した。

#### （訓練実施内容）

- 関節可動域訓練
- 体力、筋力、バランス能力訓練（腕立て、腹筋、スクワット、バンド等）
- 巧緻動作訓練（紐通し、パズル、はめ絵、塗り絵、折り紙等）
- 姿勢保持訓練（立位、座位バランス等）
- 日常生活動作訓練（車椅子移動、移乗動作等）
- 歩行訓練（歩行器での歩行、車椅子支持での歩行）
- 趣味活動（キャッチボール、バッティング、ゲーム、パソコン等）
- リラクセーション（マッサージ、プロンキーパー等）

### (3) 生活部相談援助課

#### 《概況》

平成 29 年度は、ゆうかり学園 60 周年、創設者生誕 100 年の記念行事を行った。また、7 月に発生した九州北部豪雨では、福岡県(朝倉市)と大分県(日田市)地域に甚大な被害をもたらした。

相談援助課は、両施設兼務での業務を継続した。一般生活援助業務(食事、入浴、排泄、移動等)で関わりを深めながら利用者様お一人おひとりの一日の生活の流れ、身体面、精神面、対人面などを把握することに努めた。また、利用者様一人ひとりと個別活動や集団活動を通してコミュニケーションを図り、更なる信頼関係の構築にも努めた。

そして、情緒の安定を目的として行ってきた読み聞かせの活動を継続で実施し、前頭前野の活性化を図るためにカードのインプット等にも取り組んだ。

また、散歩をするには絶好の環境であるため、気分転換・ストレス解消・多くの方との触れ合い等を目的に敷地内や隣接の運動公園で活動を行った。

利用者様も個室生活に慣れてきたと思われるが、孤独感を感じさせないように各居室に向いた折に、以前以上にコミュニケーションを密にとるように心掛ける配慮も継続した。

今後の課題としては、利用者様の高齢化に伴う身体機能、精神活動の低下を、他の部署と連携を取りながら、快適な生活で過ごせるように支援したい。

#### (援助内容)

- ① 面談活動(カタルシス)
- ② 散歩療法(発散、リフレッシュ)
- ③ 表現療法(遊び活動、自己表現、生きがい、興味拡大、信頼関係)
- ④ ポジショニング(リラクゼーション、慢性痛の軽減、QOLの拡大等)
- ⑤ 前頭前野活性化法(読み聞かせ、公文カード、ドリル等)
- ⑥ 介護全般
- ⑦ メンタルヘルス(ドライブ外出、カウンセリング)
- ⑧ 環境整備、その他

#### (4) 生活部看護課

障害者支援施設に於て、利用者様の高齢化に伴い、障害の重度化・重複化・疾病の多様化により、園内で医療行為を必要とする利用者様が徐々に増加する傾向であり協力病院との連携が必要不可欠な状況です。

利用者様の健康管理・衛生管理を行いサービス向上に努めています。

《平成 29 年度》

① 委託入院	田主丸中央病院	8 件
	聖マリア病院	1 件
	久留米大学病院	1 件
② 医療的ケア	経管栄養（胃瘻）	1 名
	吸引	1 名
	吸入	2 名
	注腸	1 名
	バルーン管理	3 名
③ インフルエンザ予防接種		37 名
④ 肺炎球菌ワクチン接種		3 名

⑤ 第二千歳療護園 年齢別入所者数 平成 30 年 3 月 31 日現在

年齢	30 歳未満	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65 歳以上	計
利用者数	0	1	8	15	8	8	40
%	0	2	23	40	20	15	100

⑥ 第二千歳療護園 病類別入所者数 平成 30 年 3 月 31 日現在

病 名	人数	病 名	人数
脳性麻痺	30	脳梗塞後遺症	2
先天性骨発育不全症	1	頭部外傷後遺症	1
高血圧性脳出血	1	糖尿病	1
脳炎後遺症	1	脳出血後遺症	1
白内障術後無水晶体眼・左眼球萎縮	1		
クーゲルベルグ・ヴェランダー病	1		

別表(1)

地域別入退園者状況表

平成29年度

	区分 福祉名	前年度末 人員	本年度 入所人員	本年度 退所人員	本年度末 人員	性 別		備 考
						男	女	
町 村 福 祉 関 係	志 免 町							
	上 陽 町							
	大 木 町	2			2	1	1	
	上 毛 町		1		1	1		
	那 珂 川 町							
	星 野 村							
	矢 部 村							
	苧 田 町	1			1	1		
	筑 前 町	1			1	1		
	福 智 町	1			1		1	
小 計	5	1		6	4	2		
市 福 祉 関 係	福 岡 市	5		2	3	2	1	
	北 九 州 市	1			1	1		
	大 牟 田 市	1			1		1	
	久 留 米 市	9			9	5	4	
	直 方 市							
	飯 塚 市	2			2	1	1	
	田 川 市							
	柳 川 市	1			1		1	
	宗 像 市							
	八 女 市	1			1	1		
	筑 後 市							
	大 川 市	1			1	1		
	小 郡 市	1			1		1	
	筑 紫 野 市	2			2	1	1	
	春 日 市							
	大 野 城 市							
	糸 島 市							
	山 田 市							
	行 橋 市							
	豊 前 市							
中 間 市								
古 賀 市								
う き は 市	4	1		5	2	3		
朝 倉 市	4			4	3	1		
み や ま 市	3			3	2	1		
福 津 市								
小 計	35	1	2	34	19	15		
県 外	鳥 栖 市							
	日 田 市							
	佐 賀 市							
	佐 賀 中 部							
	小 計							
合 計		40	2	2	40	23	17	



別表 (2)

## 週 生 活 表

第二千歳療護園

曜日	月	火	水	木	金	土	日	
時間								
6:30	起床							
8:00	着替・洗面・移動 朝食							
9:00	移動・排泄・歯磨き (朝礼・申し送り) (寝具交換・掃除)							
9:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	園長懇談会	
10:30	訓練	訓練	訓練	外出	外出	訓練		【生花】
11:00	練習	練習	練習	練習	練習			
12:00	昼食 移動・排泄・歯磨き							
13:30	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)	入浴 (女性)	入浴 (男性)		
14:00	訓練	訓練	定期診察 療育会議 外出	訓練	外出 ちとせ会 職員懇談会	訓練		
15:00	練習	練習	練習	練習	練習	練習		
16:00		暖和会						
16:20	※ 入浴は、千歳と第二千歳を1ヶ月交代で午前と午後を入れ替えて実施							
17:00	夕食							
18:00	歯磨き(自立者一部)、後片付け、排泄							
19:00	着替え、自由時間							
20:00	歯磨き(介助者)							
	歯磨き(自立者)							
21:00	消灯							
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 月曜日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション(月～土)</li> <li>○ 火曜日 利用者買物(隔週) ネイルボランティア(毎月1回)</li> <li>○ 水曜日 誕生者外出、療育会議(外部講師・カンファレンス・園長講義) 暖話会(第2週)</li> <li>○ 木曜日 誕生者外出、ちとせ会・職員懇談会(第2週) 午後カラオケ</li> <li>○ 金曜日 ビデオ視聴・個別活動・製作活動・ドライブ外出・レクリエーション</li> <li>○ 土曜日 利用者と園長懇談会(最終土曜日)、生け花(第3週)</li> <li>○ 月行事 体重測定(千歳:第一日曜 第二千歳:第二日曜日)、出張散髪(最終月曜日)</li> <li>○ 隔月 防災教育、避難訓練、味彩クラブ(給食会議)</li> </ul>							

## 別表 (3)

## 年間実施行事記録表

平成 29 年度

月	日	行 事 等	月	日	行 事 等
4	13	外出 (久留米ゆめタウン)	9	5	出張散髪
	15	生け花		16	生け花
	20	ネイルボランティア		19	ネイルボランティア
	24	外出 (久留米ゆめタウン)・出張散髪		25	出張散髪
	27	外出 (久留米ゆめタウン)	10	3	外出(マックスバリュ)出張散髪
5	1	サニックスワールドラグビーユース		15	室内運動会
	3	障害者スポーツ大会 (博多の森)		26	ネイルボランティア
	15	外出 (久留米ゆめタウン)		27	生け花
	16	外出 (久留米ゆめタウン)		30	出張散髪
	23	ネイルボランティア	11	9	外出 (マックスバリュ)
	27	希望外出 (しきなみ短歌会)		7	出張散髪
	29	出張散髪		25	生け花
31	外出(マックスバリュ)	27		出張散髪	
6	1	外出 (吉井ゆめタウン)	12	30	外出 (マックスバリュ) ネイルボランティア
	2	生け花		4	出張散髪
	4	ちとせ祭		14	うきは消防署指導避難訓練・餅つき慰問
	6	外出(マックスバリュ)		16	生け花
	8	外出(マックスバリュ)		19	ネイルボランティア
	13	外出(マックスバリュ)	22	忘年会	
	17	生け花	1	9	出張散髪
	20	ネイルボランティア		20	生け花
	21	外出(マックスバリュ)		23	ネイルボランティア
	22	招待外出(サーカス)		27	希望外出 (池坊いけばなパフォーマンス)
	26	出張散髪		29	出張散髪
	29	招待外出(ナイター観戦)		2	13
	7	4	出張散髪		17
10		希望外出 (原鶴温泉)	20		ネイルボランティア
13		ネイルボランティア	26		出張散髪
15		生け花	3		6
31		出張散髪		15	九州プロレス慰問
8	1	第二千歳開園記念日・出張散髪		17	生け花
	18	60周年記念式典		20	ネイルボランティア
	22	ネイルボランティア		28	花見外出
	28	出張散髪		29	花見外出
	31	納涼祭	30	花見外出	

## 参) 実習生受け入れ状況

## \* 介護等体験実習

大 学 名	実習期間	人数
福岡大学	5日間×1名	5名
久留米工業大学	5日間×1名	5名
福岡女子大学	5日間×1名	5名

(延べ人数 15名)

別表(4)

## 日常生活動作の介護状況

生活動作	区分	男	女	計
食 事	自 立	2	1	3
	一部介助	11	11	22
	全介助	10	5	15
起 坐	自 立	8	4	12
	一部介助	1	3	4
	全介助	14	10	24
立ち上がり	自 立	3	2	5
	一部介助	4	3	7
	全介助	16	12	28
排 泄	自 立	1	1	2
	一部介助	7	3	10
	全介助	15	13	28
更 衣	自 立	3	3	6
	一部介助	5	1	6
	全介助	15	13	28
入 浴	自 立	0	0	0
	一部介助	3	1	4
	全介助	20	16	36
歩 行	自 立	1	0	1
	一部介助	1	3	4
	全介助	21	14	35
寝返り	自 立	10	6	16
	一部介助	2	1	3
	全介助	11	10	21
車椅子使用	自 立	4	2	6
	一部介助	7	8	15
	全介助	10	6	16

生活動作	区分	男	女	計	
夜間処遇	排便排尿	1回	3	1	4
		2回	4	8	12
		3回	6	6	12
		4回	5	1	6
		計	18	16	34
	服 薬	1回	13	8	21
		2回	7	8	15
		3回	0	0	0
		計	20	16	36
	体位変換	1回	1	0	1
		2回	0	0	0
		3回	0	0	0
		6回	0	1	1
計		1	1	2	
おむつ使用	昼・夜	14	7	21	
	夜間のみ	1	3	4	

- ・食事⇒配膳された状態で、魚の骨取りも含む。
- ・排泄⇒排泄後の処置、女性は生理処理も含む。
- ・更衣⇒ホックなど、着脱が行ない易く改良した衣類を使用して。
- ・入浴⇒一部自立とは、浴槽の中に独力で入っていることが出来たり、洗体の一部が出来る事。

## 久留米市小児慢性特定疾病児童等自立支援事業

### 《概況》

慢性的な疾病にかかっていることにより、長期にわたり療養を必要とする児童等の健全育成及び自立促進を図るため、児童等及びその家族からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行い、関係機関との連絡調整を行うため、久留米市より委託された事業。

- ・実施期間 平成 29 年 4 月 1 日～
- ・看護師 2 名、社会福祉士 1 名の 3 人体制
- ・相談事業、10 月・11 月の更新申請の受付期間（各月 4 日間、8 日間）では、76 名の対象者と個別面談（支援員 2 名配置）、その内 3 名とは、支援継続する。その他に電話相談 1 件
- ・ピアカウンセリングを 12 月「内分泌疾患」、参加者 1 名にて相談会になる。3 月「炎症性腸疾患」について実施、参加者 5 名と当事者 1 名で情報交換の時間が足りず、今後もこのような会を続けてほしいとの、要望が聞かれた。開催時期・内容を検討し、より多くの方に参加していただけるよう計画していきたい。
- ・福岡県、久留米市と小児慢性特定疾病レスパイト支援事業契約するが、利用者はなかった。
- ・今後の課題 他市の自立支援員とのネットワークを活かし、必須事業であるピアカウンセリングの充実をはかる。相談窓口での聞き取りと周知活動に力を入れ、対象者のニーズに沿った交流会を企画していく。個別相談については、関係機関につないだ後も定期的フォローを行い、切れ目のない支援を丁寧に行っていく。

# 久留米市東部障害者基幹相談支援センター

## 1. 委託相談概況

久留米市東部基幹相談支援センターは、平成 28 年 7 月に久留米市より受託を受け基幹相談事業を展開し、本年度が 2 年目である。

委託相談では、担当の東部地区である山川、山本、草野、善導寺、大橋、船越、水縄、田主丸、水分、竹野、川会、柴刈の各小学校区エリアに在住の本人・家族からの基本相談を行った。相談内容は、福祉サービス利用や、家族、人間関係についての相談、不安解消のための傾聴、障害者手帳等の申請、年金や相続等、多岐にわたっている。相談の方法としては、電話相談が圧倒的に多いものの、来所相談が困難である方や、関係者との調整会議などのために訪問を希望される方も多い。

地域の障害者福祉に関する総合相談窓口としての周知がすすむにつれ、障害当事者の方や、その家族を支援する関係機関との連携や協働等により問題解決の糸口を見出していくことも増えている。一方で、当事者の方々の日常生活に対してより密接で現実的な援助を必要とされるケースも多く、完結的解決に至らない場合も多い。また、精神面に大きな問題を持つ相談者の方々に対する支援では、精神的問題や制度的問題以外にも、人間関係的問題も派生している場合が多く、支援機関とのネットワーク構築を図りながら、傾聴などの対応にも多くの時間を要している。

さらには、医療機関や保健医療サービス、包括支援センターや介護サービス事業所などの医療・高齢者支援機関や、社会的活動を実施している地域の企業や団体との連携も徐々にではあるが広がってきており、地域での包括的な支援システムの構築が求められている。

### 【1】総合的・専門的な相談支援

#### ○相談支援実績

述べ相談件数 合計：1,540 件

相談方法	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子メール	個別支援会議	その他	合計
合計	190	124	87	595	27	103	10	1,136

相談内容別件数合計数：1540 件

相談内容	福祉サービスの利用等	病状や症状の理解	健康医療	不安の解消 情緒安定	保育教育	家族関係 人間関係	家計 経済
合計	423	74	158	249	47	136	140

生活技術	就労	社会参加 余暇活動	権利擁護	その他	住宅
92	94	42	5	80	0

### ○障害種別相談人数

実相談人数：391(79) うち()内は児童

	身体 障害	知的 障害	精神 障害	重症心 身障害	発達 障害	高次脳機 能障害	難病	その他
合計	95 (6)	122 (29)	167 (10)	0 (0)	95 (64)	22 (0)	23 (0)	15 (2)

### ○関係機関との連絡・調整

合計件数：2327 件

	行政 機関	就労 機関	医療 機関	福祉 サービス 事業所	居宅介護 事業所	地域包括 支援 センター	相談支援 事業所	教育 機関
合計	357	40	445	362	40	85	783	23

成年 後見 関係	住宅 関係	療育 機関	発達障害 者支援セ ンター	その他
3	0	1	5	183

## 2. 基幹相談概況

基幹相談では、相談支援事業所に対してサービス等利用計画作成についての助言、個別支援会議への同行、新規ケースの福祉サービス利用に向けての助言を行なった。サービス等利用計画の推進では、相談支援事業所と連携しながら計画推進に努める。委託相談の増加に伴い、相談支援事業所に依頼するケースは増加している。相談支援事業所や関係機関との密な連携が必要なケースも増えているのが現状である。

研修会は基幹センター全体で4回の研修会を企画、運営した。東部基幹では9月に「こんなときどうする？～熊本震災から学ぶこと～」をテーマに研修を開催した。熊本震災における福祉事業所の取り組み、久留米市における災害時の対応について関係機関との連携の必要性と今後の災害支援について考える機会となった。基幹センターでは災害ワーキングを立ち上げ、ヘルプカードの作成・避難所の現状確認等、災害に備えるための具体的な取り組みを始めている。

本年度は久留米市障害者地域生活支援協議会が再編され、計画等策定検討部会、権利擁護部会、施策推進部会が構成された。基幹センターは、施策推進部会の事務局となり運営を行なった。施策推進部会は相談分科会、おとな分科会、こども分科

会、当事者分科会、重心分科会が構成され、それぞれの分科会で協議を行ってきた。

東部基幹では重心分科会、こども分科会において事務局として関わった。重心分科会は医療ケアが必要な重心児・者の生活状況や福祉サービスの実態を把握し今後の支援を検討するためのアンケート調査の準備を行なっている。こども分科会では、子どもに関する地域の社会資源の情報を集めたり、市民活動団体の現状把握を行なってきた。

情報発信の面では、基幹センターホームページに於いて基幹センターの取り組みや市内の研修会等の情報発信を行なった。機関誌については9月と2月に機関誌を発行した。

地域の相談機関との連携強化については、地域包括支援センター地域ケア会議の参加や民生委員との連携等、少しずつ広がりがみえている。一方で、障害のある方が生活するうえでの、東部エリアの地域課題については未だ十分な把握が出来ていないのが現状である。今後は、相談支援事業所への支援及び協議会の運営を通して、地域課題の把握・整理を行い、その課題を解決していくために社会資源と更なる連携強化を目指していきたい。

### 【1】 指定相談支援事業者等に対する指導、助言

○支援内容：283件

	基幹から計画相談依頼	事業所からのケース相談	会議等の出席	同行	情報共有	情報提供のみ	計画作成における助言	その他
合計	6	11	70	45	100	23	15	13

○相談支援事業所所在地 合計：283件

	市内事業所	他市事業所
合計	275	8

### 【2】 サービス等利用計画作成の推進に伴う指定相談支援事業所への繋ぎ人数

	障害者	障害児
合計	16	9

### 【3】 地域自立支援協議会について

分科会・部会名	部会開催回数	準備・調整及び連携回数
全体会	3	0
計画策定部会	5	8
権利擁護部会	2	12

施策推進部会	1	9
重心分科会	4	37
こども分科会	11	21
相談分科会	9	47

#### 【4】出張（17件）

基幹相談研修会打合せ（愛隣館 5/24）  
 八女筑後・久留米圏域委託相談事業所情報交換機（大川市文化センター 6/9）  
 強度行動支援者養成研修 基礎（久留米市総合福祉センター 6/22, 23）  
 強度行動支援者養成研修 実践（久留米市総合福祉センター 7/13, 14）  
 障害者計画等策定検討部会（久留米市役所 8/10）  
 基幹相談支援センター研修会（久留米市役所 9/6）  
 第2回障害者計画等策定検討部会（久留米市役所 9/7）  
 第3回障害者計画等策定検討部会（久留米市役所 9/28）  
 福岡県相談支援従事者現任者研修（福岡市立心身障がい福祉センター 11/14）  
 第2回相談事業所情報交換会（大川市文化センター 11/17）  
 福岡県相談支援従事者現任者研修（あいれふ 11/24, 25）  
 平成29年度九州地区障がい相談支援事業合同研修会（鹿児島 12/7）  
 平成29年度地域自立支援協議会担当者会議（吉塚合同庁舎 12/7）  
 コミュニティーオーガナイズング研修（聖マリア大学 12/17, 18）  
 第4回障害者計画等策定検討部会（久留米市役所 1/17）  
 基幹相談センター報告・研修会（久留米シティプラザ 2/8）  
 平成29年度精神保健福祉関係機関連携調整会議（えーるピア久留米 3/26）

#### 【5】主催研修（5件）

基幹相談支援センター研修会「共生社会とはなんだろう」（久留米市役所 5/31）  
 強度行動支援者養成研修 基礎（久留米市総合福祉センター 6/22, 23）  
 強度行動支援者養成研修 実践（久留米市総合福祉センター 7/13, 14）  
 基幹相談支援センター研修会「こんなときどうする？～熊本震災から学ぶこと～」  
 （久留米市役所 9/6）  
 基幹相談センター報告・研修会「医療と福祉のコラボレーション」（久留米シティ  
 プラザ 2/8）

#### 【6】参加研修（18件）

八女筑後・久留米圏域委託相談事業所情報交換会（大川市文化センター 6/9）  
 重症心身障害児・者と共に生きる2017「重症心身障害児・者への理解を深める



～地域生活を支えるために～（久留米市役所 9/22）  
gocochi 研修「ぼくと魔法の言葉たち」（石橋文化センター共同ホール 9/30）  
久留米市人権啓発推進協議会同和問題講演会（そよかぜホール 10/5）  
医療を必要とする重い障害のある人たちと共に生きる 2017（久留米市役所 11/11）  
福岡県相談支援従事者現任者研修（福岡市立心身障がい福祉センター 11/14）  
第2回相談事業所情報交換会（大川市文化センター 11/17）  
福岡県相談支援従事者現任者研修（あいれふ 11/24, 25）  
平成29年度九州地区障がい相談支援事業合同研修会（鹿児島 12/7）  
平成29年度地域自立支援協議会担当者会議（吉塚合同庁舎 12/7）  
コミュニティーオーガナイズング研修（聖マリア大学 12/17, 18）  
平成29年度 筑紫・筑後ブロック会福岡県地域生活定着支援協議会（くるめりあ六つ門 12/9）  
重症心身障害児・者ととともに生きる 2017 第2回目「重症心身障害のある人たちの食べるとは」（サンライフ 1/20）  
久留米市障害者虐待防止研修会「障害者福祉施設従事者向け虐待防止研修会」（久留米シティプラザ 2/10）  
重症心身障害児・者ととともに生きる 2017 第3回目（久留米市教育センター研修会 2/24）  
厚生省コンソーシアム事業「東近江発！つながるまちづくり！～曼荼羅的思考の入門編～」（えーるピア久留米 2/26）  
平成29年度精神保健福祉関係機関連携調整会議「精神科病院から地域へ～退院支援について～」（えーるピア久留米 3/26）  
平成30年度障害福祉サービス等報酬改定に係る説明会（えーるピア久留米 3/29）

## 【7】 会議

基幹相談センター運営会議（第1, 3木曜日）  
基幹相談センター長会議  
地域生活自立支援協議会（全体会、計画策定部会、権利擁護部会、施策推進部会、重心分科会、こども分科会、当事者分科会）  
包括ケア会議  
病院・教育・福祉施設等との関係者会議

## 【8】 連携した主な機関

田主丸中央病院、筑後吉井こころホスピタル、久留米大学病院、みのうクリニック、田中病院、久留米リハビリテーション病院、聖ルチア病院、聖マリア病院、善導寺

小学校、船越小学校、山川小学校、水縄小学校、柴刈小学校、田主丸小学校、久留米特別支援学校、福祉サービス事業所(市内・外)、民生委員、訪問看護事業所、相談支援事業所(市内・外)、久留米市役所、阿久根市役所、熊本市役所 等

# 委員会報告

- 苦情解決委員会
- 虐待防止委員会
- 安全管理委員会
- 防災対策委員会
- 院内感染対策委員会
- 衛生委員会
- 広報委員会
- 療育会議運営委員会
- 福祉 QC 委員会
- ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

## 苦情解決委員会

### 《概況》

平成 29 年度苦情解決委員会は、施設ごとの定期委員会開催、苦情・要望への対応・調整・解決等に関しては迅速に取り組んだ。

法人委員会としては、療育会議において、12 月に第三者委員への報告会、2 月に療育会議において職員報告会を行った。特に第三者委員への報告会においては、守秘義務に配慮した上で苦情・要望記入票等を事前に第三者委員へ送付し、吟味して頂いた上で報告会を開催した。職員の接遇についての苦情に対しては、管理職や中堅職員が見本となり、指摘しあえる職場風土をつくらなければならない。また、小さい事からしっかり対応し、大事にならないようにと、指導をうける。

### 《苦情・要望件数》 ー平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

	ゆうかり学園	耳納学園	千歳・第二千歳療護園
1. 職員の言動・対応等に対する苦情	4	2	2
2. 施設への要望・苦情	0	0	1 (要望)
3. 利用者様から利用者様への苦情	0	0	0
4. 保護者 (後見人) よりの苦情・要望	1 (苦情)	0	1 (要望)

### 《基本的取り組み内容及び状況》

ゆうかり医療療育センター、コアラ園においては、職員の接遇に対する苦情が 4 件あり、各関係部署へ迅速に報告対応ができた。

放課後デイの外出活動の在り方について、地域住民からの苦情以後、適切に対応しているが、放課後デイサービスの更なる質の向上をめざし、活動している。

保護者様からの苦情の申立てにより、久留米市障害福祉課より調査があった。

調査結果は過去の苦情を解決している内容であったので、指摘はなかったが、クレームを謙虚に受け止め、今後、クレーム対応のスキルアップを図っていく。

千歳療護園、第二千歳療護園では、利用者様の不適切な行為に対して、他の利用者様から出された苦情が 2 件あり、職員の迅速で、丁寧な対応が必要であった。

また、要望 2 件に関しては、一つは利用者様、保護者様の高齢に伴い、日常生活や面会時での危険予知の配慮が必要とされる案件であり、他の一件は、利用者様の健康には充分気をつけながら、利用者様の QOL (生活の質) を鑑みての対応を求められた案件であった。

耳納学園では、利用者様の小さい声に耳を傾け、安心・安全そして快適な生活と仕事場の環境作りを目標に権利擁護、虐待防止の向上に努めてきた。しかし、職員の意識の甘さから利用者様に不快感や不満を抱かせる結果になってしまっ

た。

我々職員は、権利擁護、虐待防止の意識を高め、常に緊張感を持ち、業務に責任をもって取り組み、福祉施設職員としての意識向上に努めていきたい。

## 虐待防止委員会

### 《概況》

平成 29 年度の虐待防止委員会は、各施設で定期的な委員会を開催、利用者様の虐待防止を目的に、権利擁護、身体拘束や不適切なケアなどについて状況や改善事項を確認し取り組んだ。

虐待防止の自己チェックのアンケートを行い、施設の特性にあった、施設ごとのアンケートを再チェックし、評価し問題提起しながら取り組んでいる。

全体研修会として、9月に外部講師による人権学習、1月に虐待防止研修会、を行った。虐待防止研修会では、職員による出張報告「施設職員のための障害者虐待防止研修」と年1回行っている、虐待防止の自己チェックの集計結果の報告を行った。また、12月に第三者委員報告会を行った。

今後も定期的に行っていき、虐待防止に繋がっていくよう、継続していく。

## 安全管理委員会

### 《概況》

当委員会は、利用者様と職員が安全、かつ安心な生活、又高度な医療を受けられるよう環境を整え、利用者様本位のサービスの質の向上を重点課題とし、医療・介護・療育場面における事故防止を図る事を目的とし、各施設においてそれぞれの活動を行った。職員より提出されたインシデント報告書、及びアクシデント報告書の評価を行い、事故防止対策の具体的内容について検討し、再発防止、未然防止につとめた。法人全体においては、11月に研修会、2月に職員への報告会を実施し、安全管理に対する意識向上を図った。

### 《具体的取り組みと事故発生状況》

[ゆうかり]

\*本年度の年間目標を『他部署、他職種の意見を活用しアクシデントの減少に努

める』を掲げて取り組みをした。毎月開催の委員会にて、各寮、及び各部署から提出されたアクシデントの発生状況についての分析と問題点を検討、又各寮、各部署のインシデントの活用状況についての報告を行い、職員の安全に対する意識を高めた。昨年度のアクシデント件数 246 件から、本年度のアクシデント件数 198 件へと大幅な減少の結果に繋がった。

(事故報告件数)

転倒、転落・・・16 件	外傷・・・49 件	与薬関係・・・48 件
注入カテーテル関係・・・41 件	その他・・・44 件	
		合計・・・198 件

[千歳]

\*外傷事故としては2件発生しており、内1件が骨折事故となっている。忙しい時間帯の排泄場面にて発生している。年々、加齢と共に身体機能も低下しつつある中で、忙しい時間にこそ安全面の意識を高めて対応しなければならない。この件に関しては行政へ報告書を提出した。

(事故報告件数)

転倒・・・2 件	外傷・・・2 件	誤薬・・・1 件	その他・・・1 件	合計・・・6 件
----------	----------	----------	-----------	----------

[第二千歳]

\*夜間ベッド上で就寝中に原因不明にて亡くられるという不測の事態が起こり、巡回方法をマニュアル化し巡回確認票も併せて作成した。また、骨折事故1件に関しても行政へ事故報告書を提出した。

(事故報告件数)

その他・・・3 件 (呼吸停止、バルーン破損、骨折)	合計・・・3 件
----------------------------	----------

[耳納]

\*利用者様と共に事故防止の意識向上を目指してきた。前年度の半分以下の事故件数であったが、そのすべては転倒事故であった。高齢化に伴う体力の衰えを考慮した対応の必要性を感じた。

(事故報告件数)

転倒・・・5 件	合計・・・5 件
----------	----------

## 防災対策委員会

### 《概況》

社会福祉施設においては、各種の災害時の際に特に配慮を要する利用者様が入所されており、その防災対策を確立することが強く要請されている中、当委員会ではより良い防災対策を確立することを目的に活動を行った。その中でも火災時の対策に重点をおき、各施設（耳納・千歳・ゆうかり）定期的に避難訓練を実施し、常日頃から職員及び利用者様の防災に対する意識向上を図った。又、地震災害・風水害等の自然災害にも対応できるようにマニュアルを作成した。火災時の避難訓練だけでなく風水害についての避難訓練を行うように監査指導があり、防災対策委員会にて計画を行い、実施を検討している。

毎年開催されている浮羽消防署管内の屋内消火栓・消火器操法大会にも出場しており、消火栓の部にゆうかり学園から3チーム、消火器の部に千歳療護園から1チームが出場した。消火栓の部に出場した1チームが5位入賞し、表彰を受けている。

### 《避難訓練実施状況》

（耳納学園）

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

（千歳療護園）

3回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

（ゆうかり学園）

2回実施 日勤時想定避難訓練・ゆうかり学園合同夜間想定総合訓練

毎月1回各寮別に実施

## 院内感染対策委員会

### 《概況》

利用者様が安全・安心に過ごして頂くために、感染防止の基本的知識を理解し、科学的根拠にもとづく日常の感染防止対策、アウトブレイク時に迅速な対応ができるよう、年2回全体研修会、月1回の委員会ではテーマに沿って情報提供、感染症マニュアルの見直しを行った。今年度より、心理療育部から1名委員会に加入する。

月	内 容
4月	平成29年度年間計画・委員会指針について
5月	带状疱疹について
6月	夏場に流行る感染症について
7月	針刺し・噛みつき事故について
8月	頭ジラミについて
9月	疥癬について
10月	インフルエンザウイルスについて
11月	ノロウイルス感染症について
12月	流行性耳下腺炎について
1月	マイコプラズマについて
2月	手指衛生（手洗い）について
3月	平成29年度感染症報告

開催日 毎月第1金曜日  
開催時間 9:30～10:00  
委員 所長他14名

#### 11月の全体研修会（院内感染対策委員による講義）

- ・带状疱疹について
- ・ゆかり医療療育センターにおける対応
- ・重症児者（施設）の特徴
- ・手指衛生について

#### 2月の全体報告会

- ・年間感染症の状況

下痢原性大腸菌腸炎 なかよし寮 4名、おひさま寮 1名、ともだち寮 3名  
ノロウイルス感染症 なかよし寮 2名、ともだち寮 1名  
インフルエンザA型 おひさま寮 1名、ともだち寮 1名  
インフルエンザB型 なかよし寮 8名



## 衛生委員会

### 《概況》

職場の衛生管理体制を整備確立するとともに、職員の健康保進を図り、明るく快適な職場環境を形成するために、月1回院内感染対策委員会と一緒に開催。年1回全体研修会を実施。

月	内 容
4月	平成29年度年間計画について
5月	メンタルヘルスについて
6月	食中毒について
7月	熱中症について
8月	喫煙対策
9月	腰痛対策
10月	リンパについて
11月	治療と職業生活の両立等支援対策
12月	月経困難症について
1月	睡眠について
2月	各世代の特徴と効果的な接し方
3月	寒さ対策

- ・6月全職員対象にストレスチェック実施する。315名中289名受診(受診率91.7%)昨年同様チェック用紙への記入ミスが含まれる。産業医の面談希望者1名。
- ・今後の課題として、産業医の面談希望者を増やして、快適な職場環境を築いていきたい。

## 広報委員会

### 《概況》

広報委員会は、広報紙の発行とホームページの管理を担っている。

広報紙は6月1日(53号)、10月1日(54号)、2月1日(55号)の年間3回発行し、委員8名で構成した編集会議は、施設内LANを活用して年間3~4回にとどめ、締め切り内に発行できるように、努力している。

ホームページに関しては、インフォメーションなど手軽に更新できるようにリニューアルしているが、更新数は多くない。

広報紙各号の内容および配布先や発行部数は、以下の通りである。

[発行内容]

- 第 53 号（平成 29 年 6 月 1 日発行） 表紙…コアラ園
  - ・ 節目の年に・・・日野事務局長
  - ・ こえだ物語 48（久留米市東部障害者基幹相談支援センター、誰もがその人らしく暮らしていけるように）
  - ・ 今日の仲間 36（小学部、中学部の計 3 名の入学者紹介）
  - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）、善意のかずかずや新人紹介他
  - ・ 28 年度事業報告、決算状況報告および 29 年度事業計画の報告記事
- 第 54 号（平成 29 年 10 月 1 日発行） 表紙…耳納学園
  - ・ 社会福祉法人ゆうかり学園 創立 60 周年式典開催にあたり…日野理事長
  - ・ こえだ物語 49（なかよし寮 調理教室 いろいろな経験をしていこう）
  - ・ 今日の仲間 37（耳納学園、千歳療護園、なかよし寮、支援センターちとせの仲間）
  - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
  - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、新人職員紹介他
- 第 55 号（平成 30 年 2 月 1 日発行） 表紙…おひさま寮
  - ・ 年頭にあたって…日野理事長
  - ・ こえだ物語 50（いけばな展 いけばなの魅力を発信しよう）
  - ・ 今日の仲間 38（ともだち寮、おひさま寮、第二千歳療護園、コアラ園の仲間）
  - ・ 施設だより（各施設・寮の行事紹介）
  - ・ ニュースやお知らせ、善意のかずかず、耳納学園展示即売会お礼、永年勤続表彰、新人職員紹介他

[配布先および発行部数]

- ◎学園関係（利用者様及び園内各部署、賛助会員様等に配布…500 部）
- ◎行政や地域、関連諸施設、学校などに配布（700 部）
- ◎1 回の発行部数は 1,300 部、年間発行部数は 3,900 部であった。

**療育会議運営委員会**

平成 29 年度 表の通り実施しました。

今年度の人権問題（外部講師）は、NPO 法人スペース deGUNGUN 理事長の百田英子

様へ依頼し、9月に『子どもの人権保障と大人の関わり』と題し、子どもの権利条約の基本となる、「児童の権利に関する条約」を中心に日頃の仕事との関連付けや日常生活での子どもの権利保障などのお話がありました。また、昨年に引き続き3月にうきは警察署（生活安全課）の警察官2名による防犯対策講習会を実施し、防犯面で注意することや不審人物防御棒の使い方および不審人物から逃れる方法の実技講習を行いました。

今年度は感染症の影響も少なく、ほぼ予定通り実施できました。

(平成29年度) 療育会議実施 H29年4月～H30年3月

日付	会議名(担当)	司会	記録	準備・片付	日付	会議名(担当)	司会	記録	準備・片付
4/12	講義(理事長)	城處 浩子	廣瀬 晴菜	おひさま 看護	10/11	運動会 最終打ち合わせ			なかよし 看護
4/26	各施設・寮				10/25	各施設・寮			
5/10	フリー			なかよし 育成	11/8	安全管理研修会 感染症研修会	古矢 真由美	山崎 幸盛	おひさま 育成
5/24	各施設・寮				11/23	各施設・寮			
6/7	QC発表会	永松 利枝子	原 貴子	千歳 療護園	12/13	各施設・寮			耳納 給食 心理
6/14	QC発表会	原 貴子	大山 美佐		12/27				
7/12	盆踊り準備			第二千歳 療護園	1/10	講義(局長)	廣瀬 晴菜	花田 正剛	ともだち 育成
7/27	各施設・寮				1/31	虐待防止研修会	佐藤 知子	吉田 康一	
8/9	各施設・寮			訓練	2/22	各施設・寮			おひさま 看護
8/23	衛生管理研修会 メンタルヘルス研修会	大山 美佐	片山 留美		2/28	報告会 (苦情解決・安全管理・感染症委員会)	花田 正剛	福山 和也	
9/13	各施設・寮			ともだち 看護	3/7	防犯対策研修会	藤川 康文	米倉 美恵子	なかよし 育成
9/27	外部講師 (人権問題)	片山 留美	古矢 真由美		3/28	各施設・寮			

※ 第2週目にできなかった場合第4週目に変更することがある。  
 ※ 第4週目に講義および研修会が実施されることもある。(その場合の司会・記録は運営委員で実施)

### 福祉QC委員会

QC活動も14年目を向かえ、活動内容のマンネリ化が取り立たされ、改めてテーマ選定の重要性を認識させられている。

活動を行うことで、サービスの改善に繋がっているものもあるが、歯止めの部分

があまく、継続が難しい面もあり、今後は小さな改善でも継続できるものを積み重ねることで、結果として残せるように、方向性を見直す必要があると考えられる。

#### 第 28 回「福祉QC」全国発表大会出場について

平成 29 年 11 月 27 日～11 月 28 日（東京にて開催）

ゆうかり医療療育センター おひさま訓練

サークル名 「おひさま G0」

テーマ 「居室外活動を増やそう」

\* 奨励賞獲得

#### 29 年度 活動サークル

所 属	サークル名	テーマ
なかよし寮看護	マット the マナー	なぜサークルマットを安全に 使えないか
ともだち寮看護	34 ↔ 61	経管栄養者の居室外活動を 増やそう
おひさま寮看護	万里子の部屋	捜したいのはそこ(倉庫)にある
なかよし寮育成	サポーターズ	車椅子から降りよう
おひさま寮育成	サンサン隊	個別活動の充実
ともだち訓練部	ポジポジ	～ポジティブポジショニング～
心理判定部	笑顔守り隊	安心・安全なお部屋で笑顔を咲かせよう
総務部	用度品庫見直し隊 (石原軍団)	会社(施設)備品の管理方法 ～物品の払い出し日の徹底とそれに伴う 事務処理の効率化～

## ゆうかり医療療育センター防犯対策委員会

### 《概況》

平成 28 年 7 月に起きた神奈川県相模原市の障害者支援施設での事件から、防犯対策委員会を設立し、防犯マニュアルを作成した。

当施設においては、身体的、精神的にも配慮を要する利用者様が多く入所されており、その防犯対策の確立が強く要請されている中、当委員会ではより良い防犯対策を確立することを目的に活動を行った。

### 《具体的取り組み状況、及び内容》

#### ※委員会開催日

(4月24日、5月29日、6月28日、7月31日、8月30日、9月27日  
10月24日、11月29日、12月27日、1月31日、2月28日、3月28日)

#### ※研修会開催日

平成 30 年 3 月 7 日 (水) 13 時 30 分～

毎月 1 回、定期的に防犯対策委員会を開催し、各寮の設備面(自動ドア、窓周辺、インターホン、さすまたなど)のチェック報告、ゆうかり敷地内の確認、門扉、全体フェンスの確認、又は、防犯監視システム、防犯カメラ、センサーライト、外灯等の外部設備面の作動確認の報告を行い、日常的に防犯に対する意識向上を図った。研修会としては、3月7日にうきは警察署の方々に来て頂き、さすまた使用方法の再確認、実施、又護身術の講義、実技を参加職員全員を対象に実施した。